

お知らせ:次回発信日は5月21日週報(予定)

Jミルクが2026年1月30日に公表した「需給見通し(※2025年11月迄実績)」の予測値と直近の実績値(牛乳乳製品統計)をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行:一般社団法人Jミルク生産流通グループ

【3月の統計実績】

● 生乳生産量

全国が、前年同月比▲1.5%(日均量、以下同)となり、3カ月連続で前年水準を下回った。地域別では、北海道が▲1.4%と全国同様に3カ月連続で前年水準を下回り、都府県は▲1.6%と7カ月連続で前年水準を下回り前月から減少幅が拡大した。指定団体受託乳量(速報)は、北海道(ホクレン)では3月下旬から5旬連続で前年水準を下回り、都府県では10月上旬から21旬連続で前年水準を下回っている。

● 牛乳等生産量

牛乳の生産量は、前年同月比▲2.2%と8カ月連続で前年水準を下回った。学乳および業務用を除く(=家庭用)牛乳は2カ月連続、成分調整牛乳が70カ月連続、加工乳が8カ月連続、乳飲料も8カ月連続で前年水準を下回っており、牛乳類全体としては8カ月連続で前年割れとなった。発酵乳については、2月が±0%と2カ月ぶりに前年割れを回避していたが、3月は▲0.1%と再び前年水準を下回った。以上の結果、生乳の飲用等向処理量は、前年同月比▲3.7%と8カ月連続で前年水準を下回り前月から減少幅が拡大した。生乳供給量も前年水準を下回ったが、飲用等向の減少の影響が大きく、乳製品向けは+0.6%と2カ月連続で前年水準を上回った。

● 乳製品需給

脱脂粉乳は、生産量が16.7千ト(▲0.9%)、推定出回り量は23.2千ト(同+23.0%)と需要量が供給量を上回った結果、在庫量は前月から約6.5千ト減少し、月末在庫量は69.5千ト(同+33.6%)と16カ月連続で前年水準を上回ったものの、4か月ぶりに70千トを下回った。これは、本年1月から実施している「酪農乳業需給変動対策特別事業」による脱脂粉乳の在庫削減対策の効果が反映されたものであり、本対策の効果を差し引いた出回り量は前年同月を下回り(▲1.7%)、月末在庫数量は約82千トの水準になったと推計される。一方、バターは生産量が8.5千ト(+2.4%)、推定出回り量が7.6千ト(▲6.5%)、輸入売渡数量が0.4千トとなり、需要量が供給量を下回った結果、在庫量は約1.3千ト増加して34.0千ト(+25.1%)となった。在庫量は19カ月連続で前年水準を上回っている。

【4月および5/4週の販売動向データ】

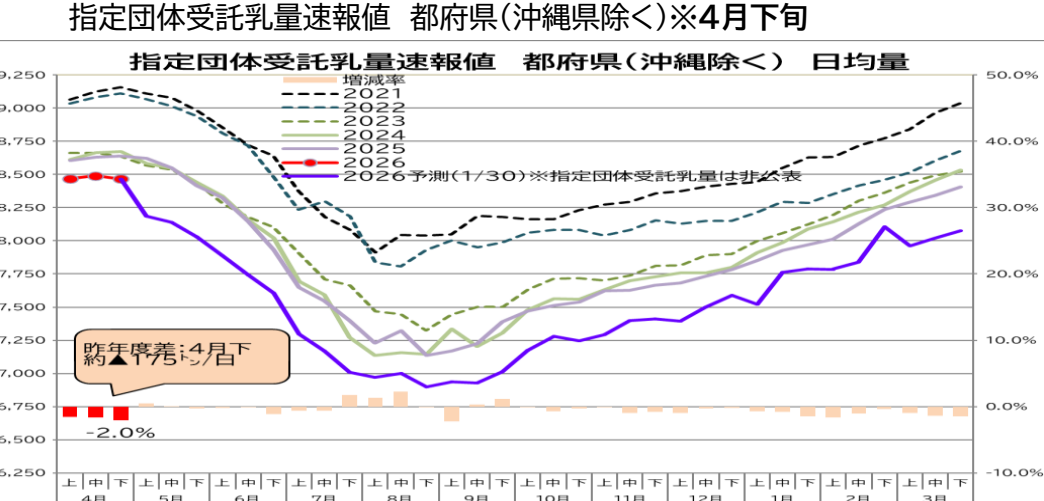
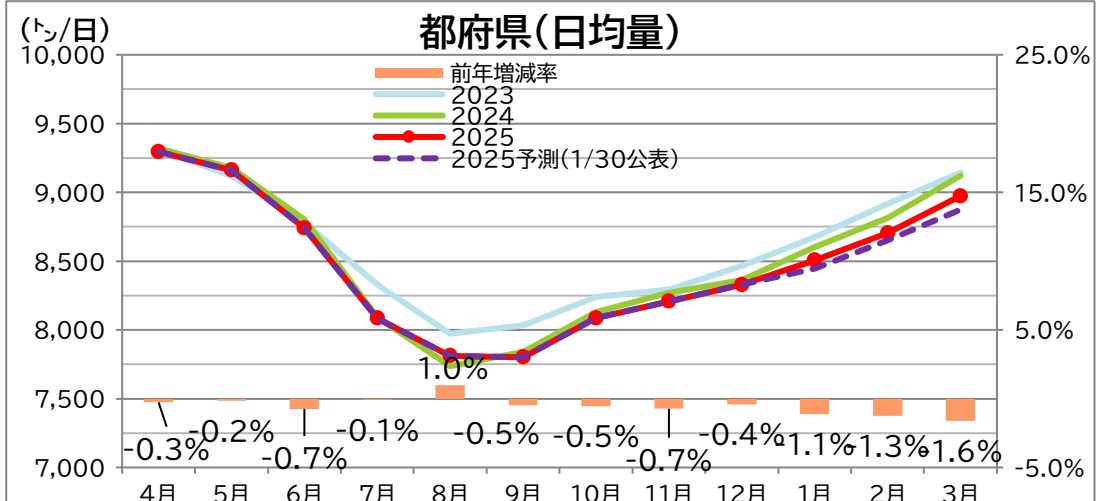
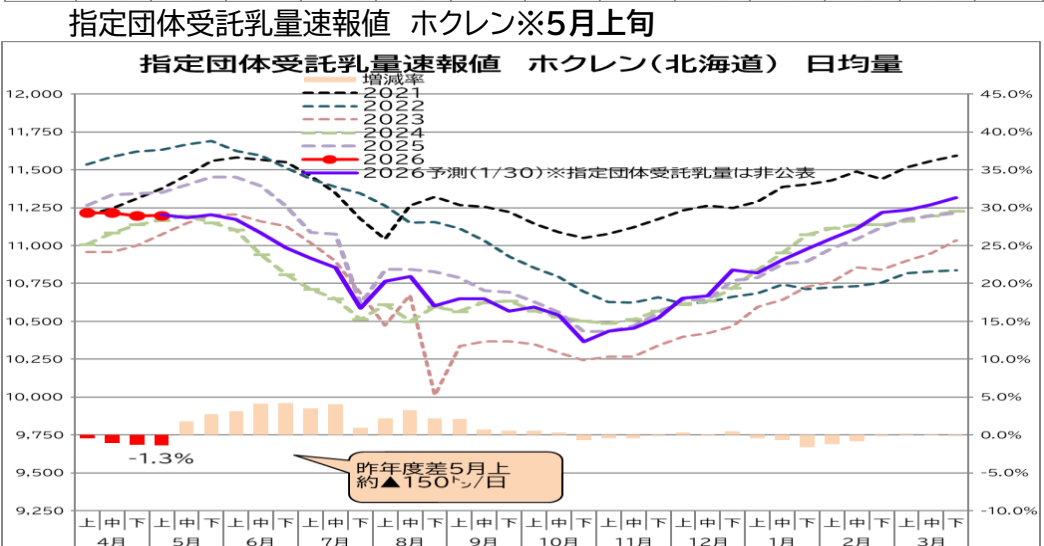
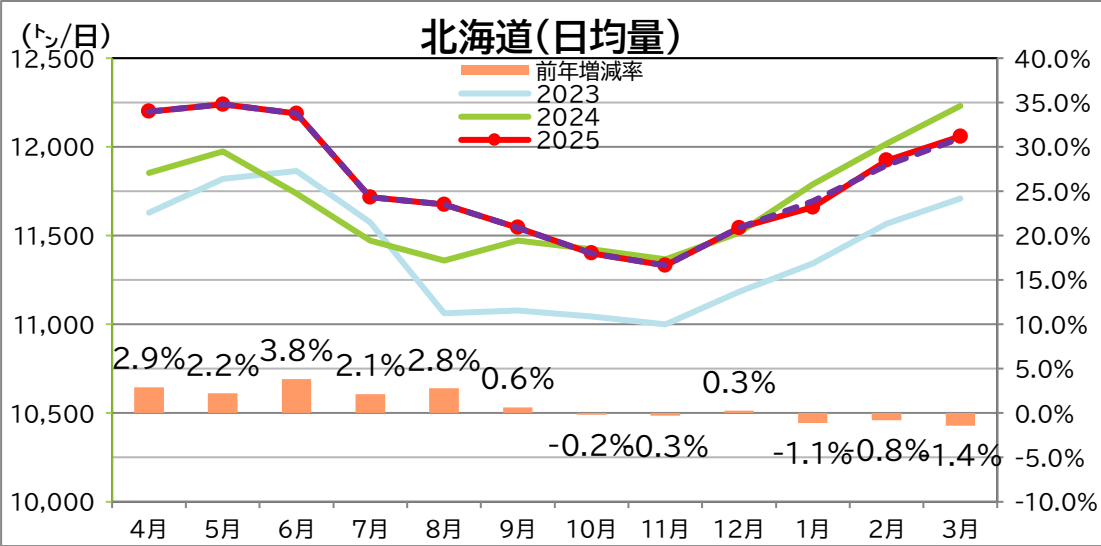
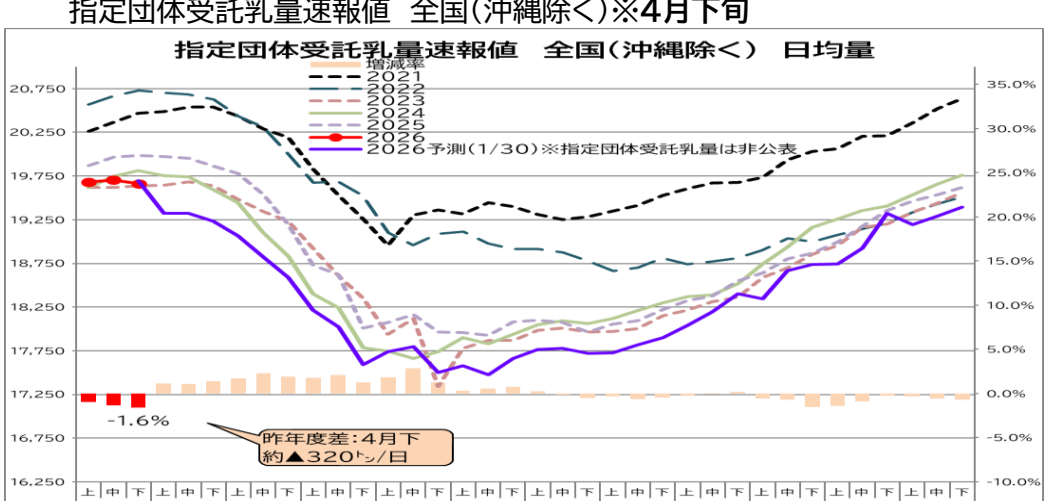
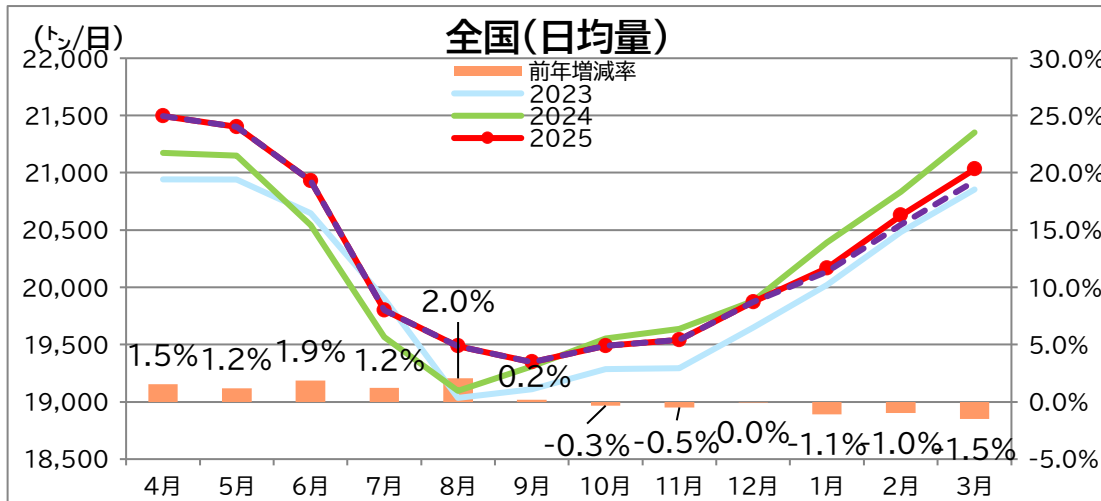
- 4月の牛乳類トータルの販売個数は、22カ月連続で前年水準を下回った。内訳を見ると、牛乳の販売個数は3カ月ぶりに前年水準を上回ったものの、その他の品目いずれも前年水準を下回った。直近週(5/4週)では、牛乳類トータルの販売個数が30週連続で前年割れとなった一方、牛乳の販売個数は3週連続で前年水準を上回った。地域別に牛乳類の販売個数を見ると東北、関東、北陸、東海、近畿の5地域が前年水準を上回った。
- 発酵乳の5/4週の合計販売数量は、個数ベースが3週ぶりに前年水準を下回ったものの、容量ベースは3週連続で前年水準を上回った。内訳を見ると、ドリンクタイプが5週連続、個食タイプが3週ぶりに前年水準を下回った一方、大容量タイプが21週連続で前年水準を上回り好調を維持している。
- 家庭用バターの5/4週の販売個数は、3週ぶりに前年水準を下回った。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)3月の生乳生産量は、全国652.0千ト(前年同月比98.5%)、北海道373.8千ト(同98.6%)、都府県278.1千ト(同98.4%)。

(2)1月30日に公表したJミルク予測値(全国648.7千ト、北海道373.5千ト、都府県275.1千ト)との比較は北海道・都府県ともに上振れした。

(3)直近の指定団体受託乳量速報値は全国が4月下旬(最新、以下同)で同98.4%、都府県(沖縄除く)が同98.0%、北海道は5月上旬が同8.7%となった。

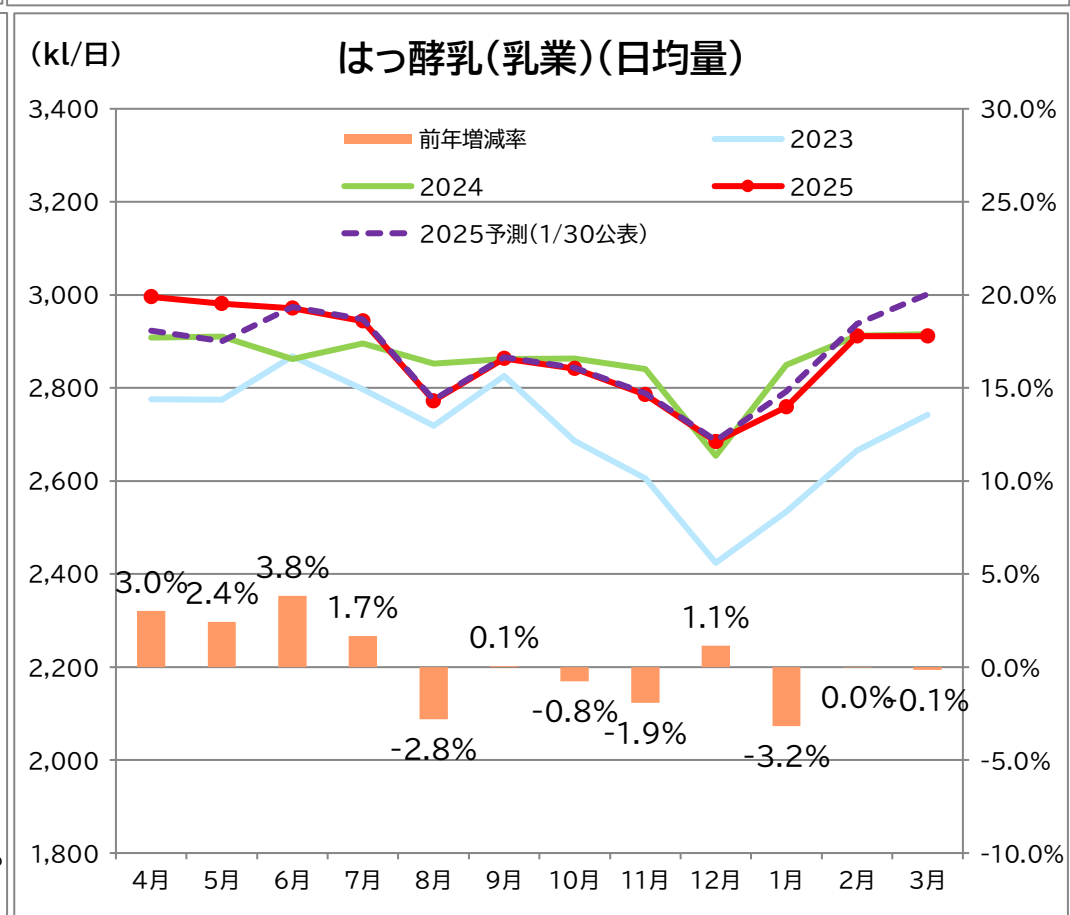
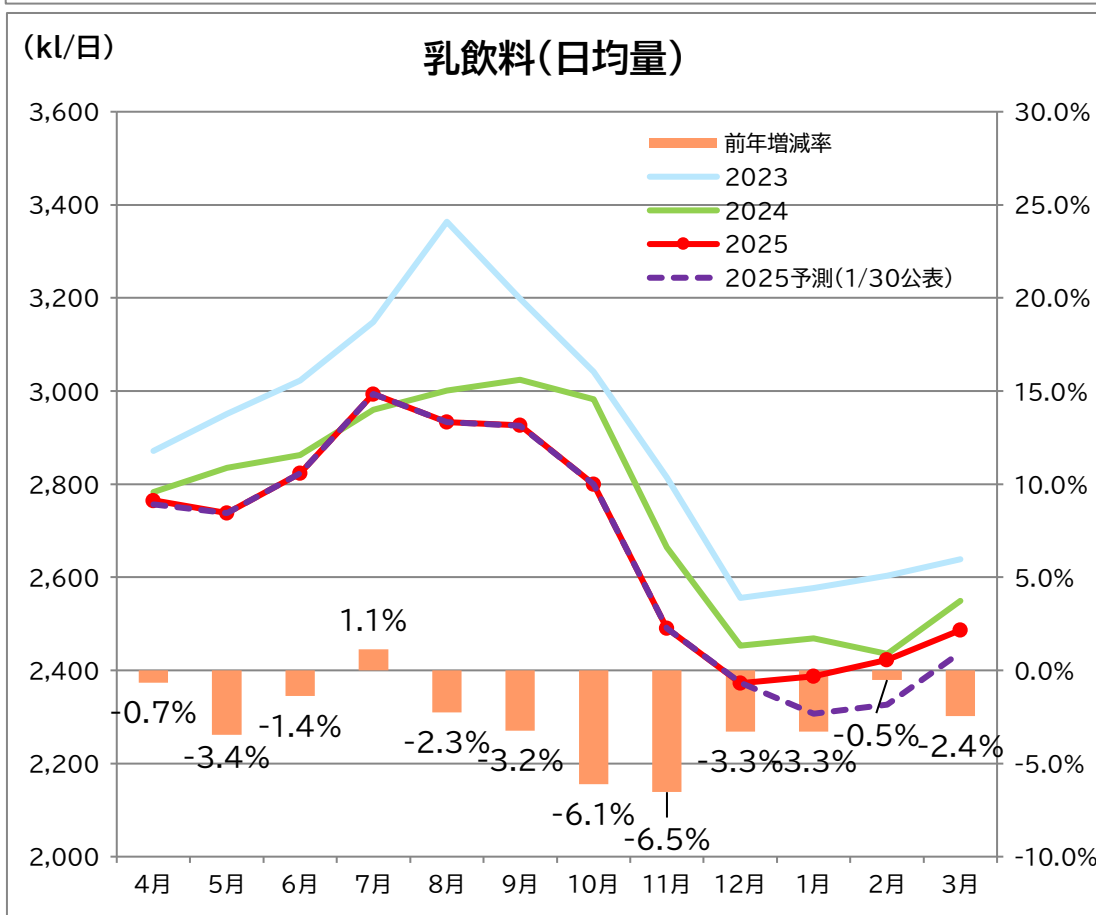
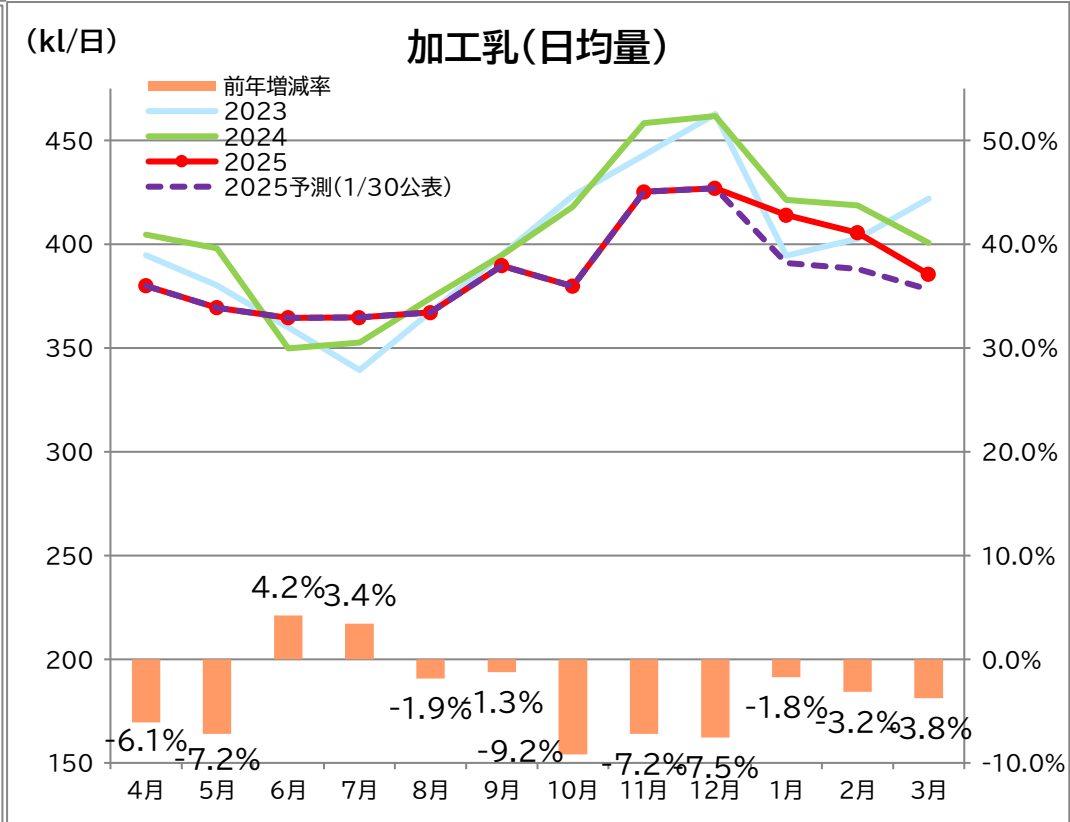
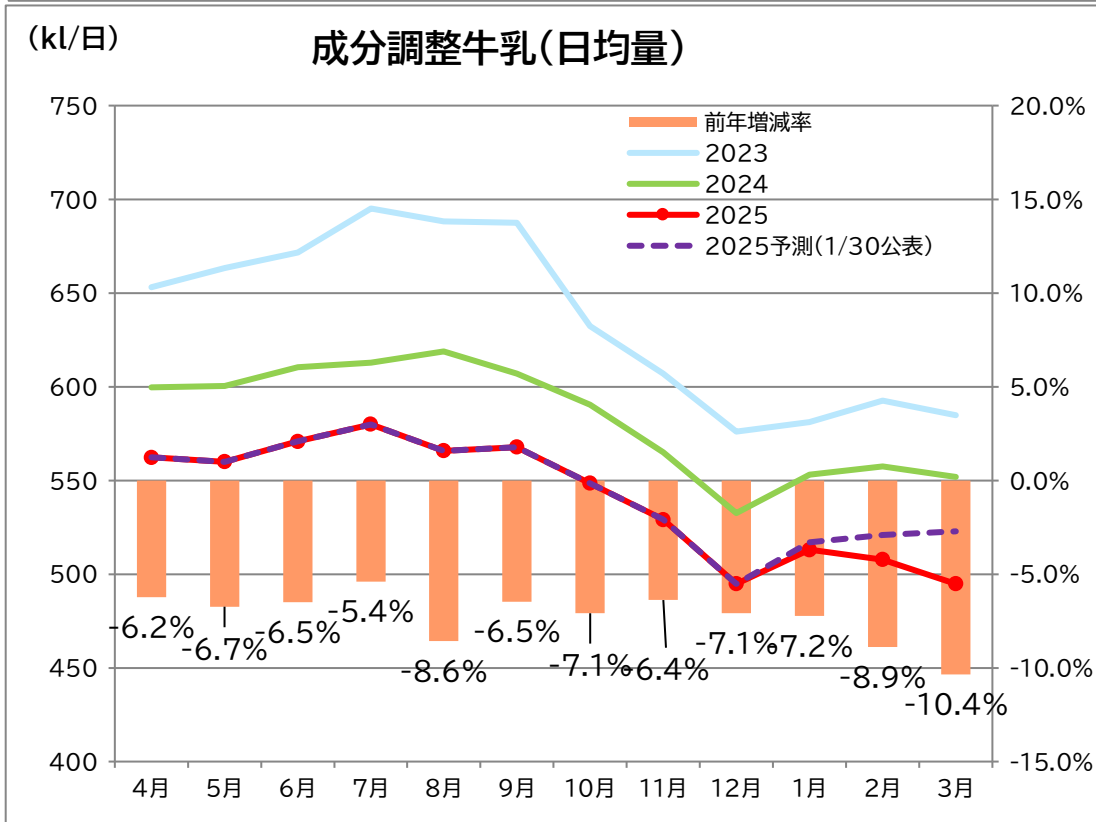
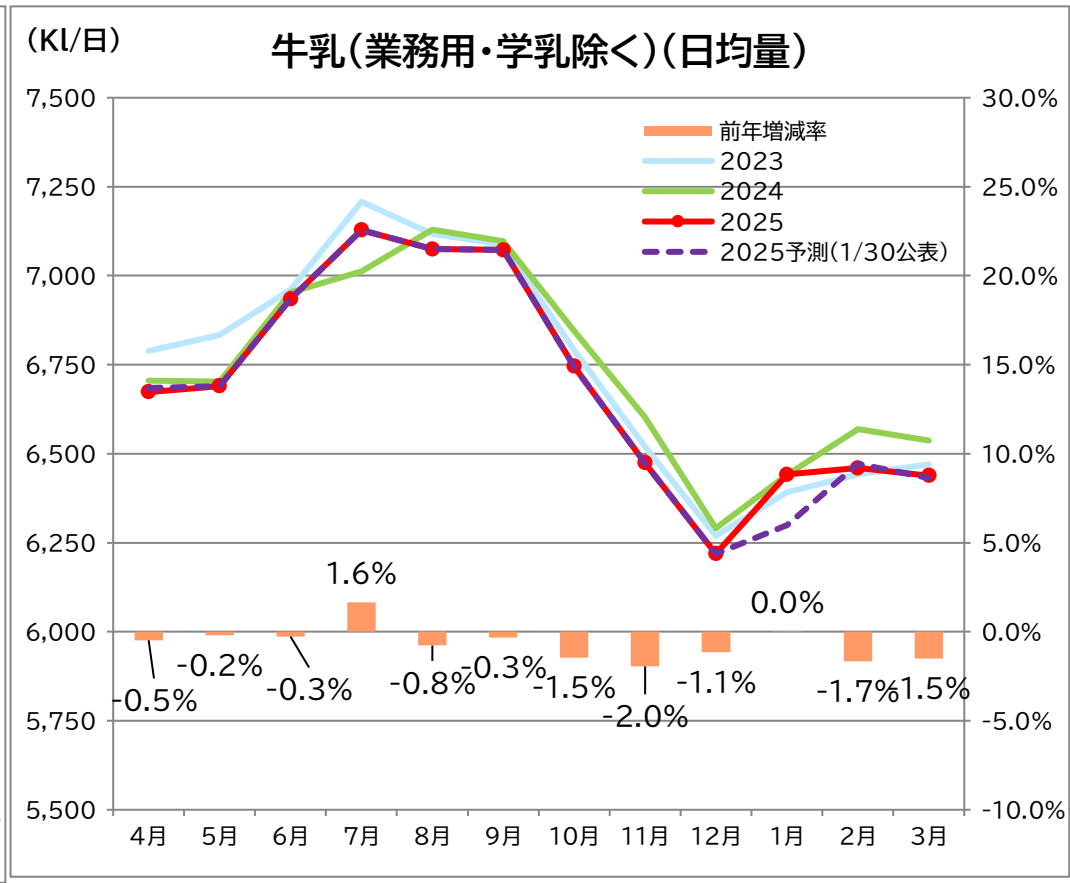
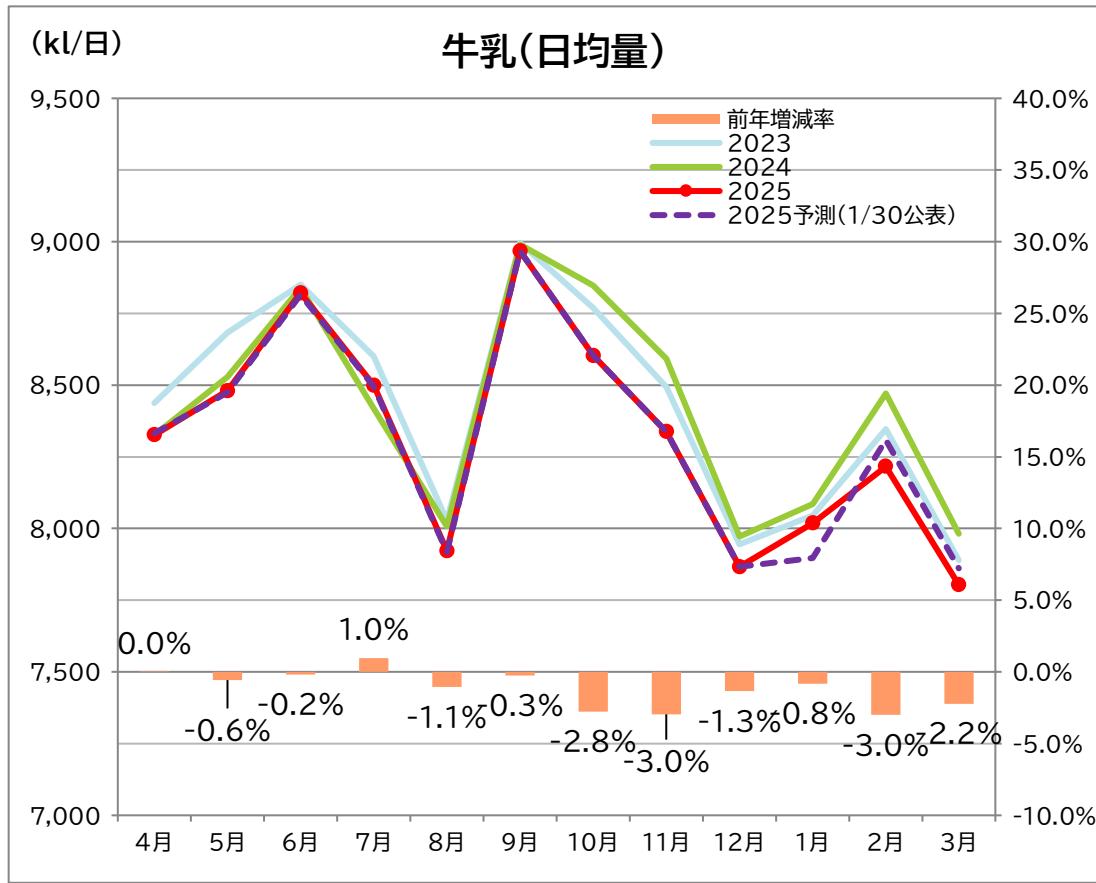


【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)3月の牛乳等生産量は、牛乳241.9千kl(前年同月比97.8%)、成分調整牛乳15.3千kl(同89.6%)、加工乳11.9千kl(同96.2%)、乳飲料77.1千kl(同97.6%)。牛乳類合計(牛乳・成分調整牛乳・加工乳・乳飲料)では、346.3千kl(同97.3%)となり、8カ月連続で前年を下回った。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同98.5%、「業務用」は同86.7%、「学乳」は103.0%。

(3)はっ酵乳(乳業)は90.2千kl(同99.9%)、はっ酵乳(非乳業:2月実績)は96.4%となった。

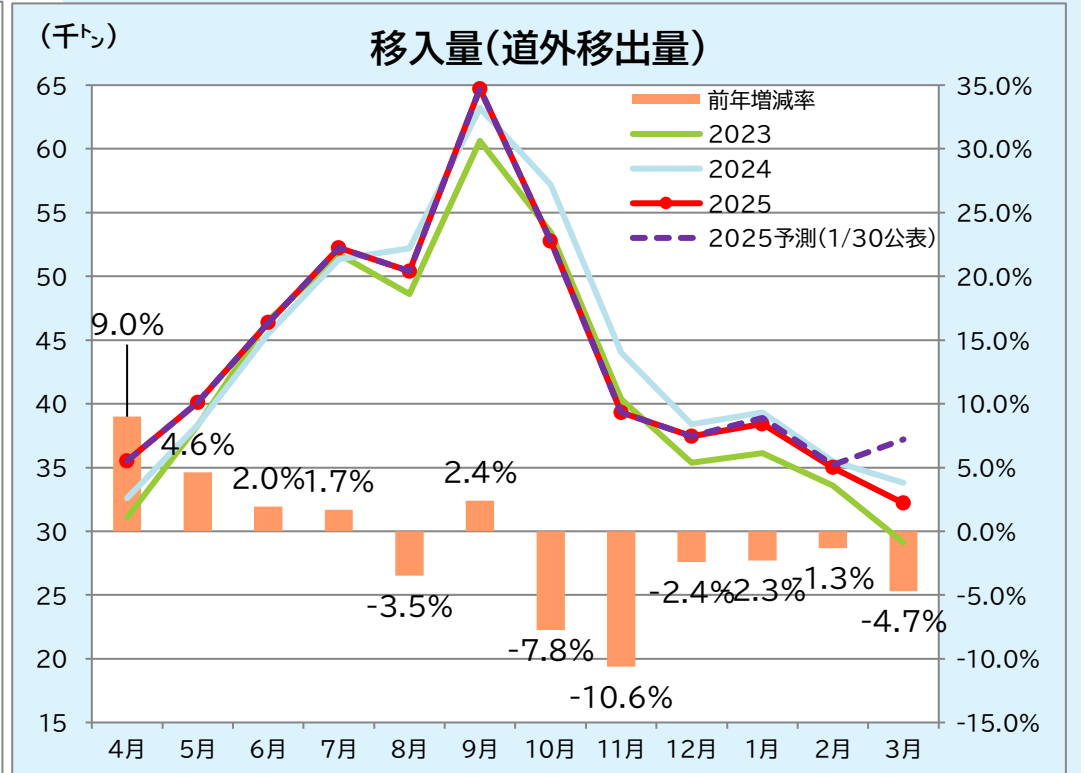
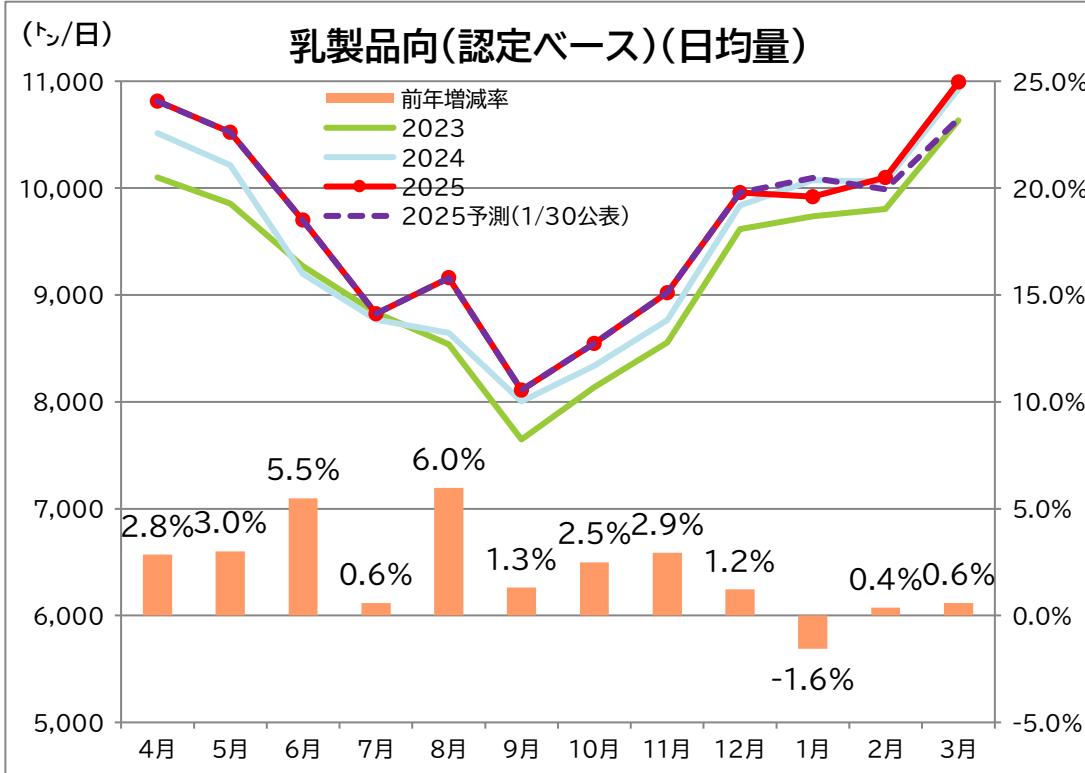
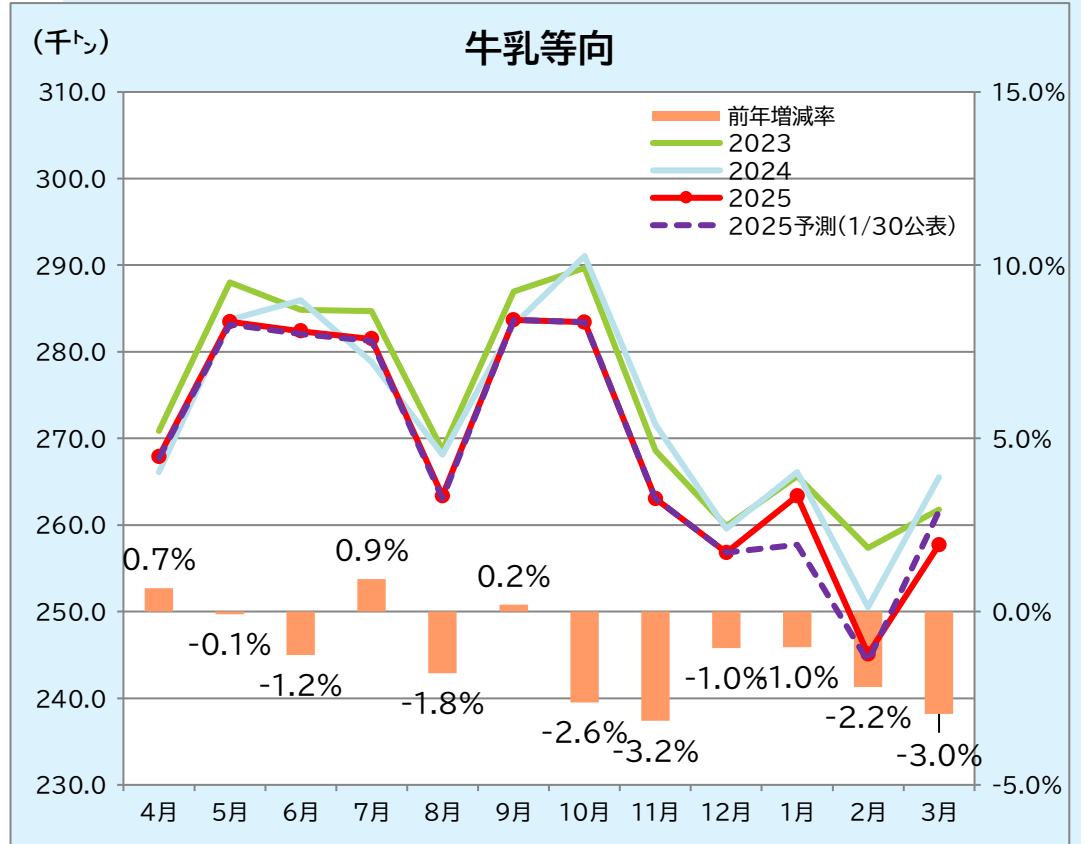
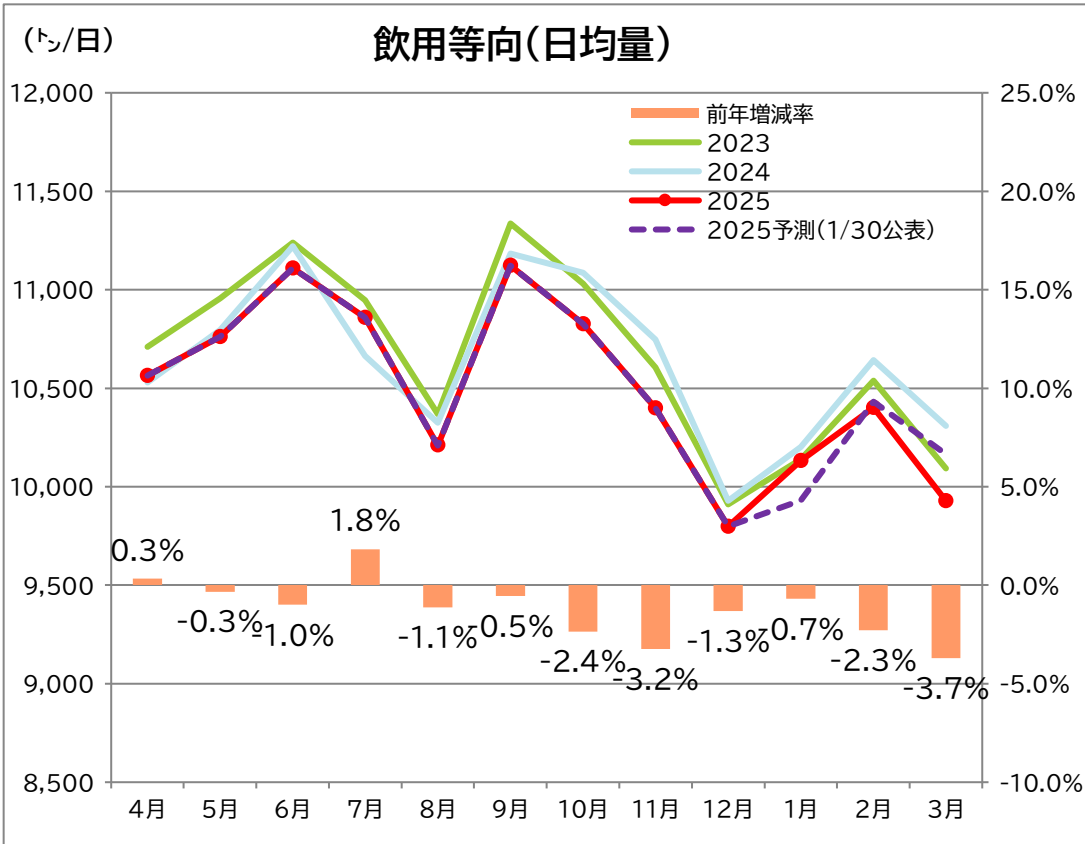
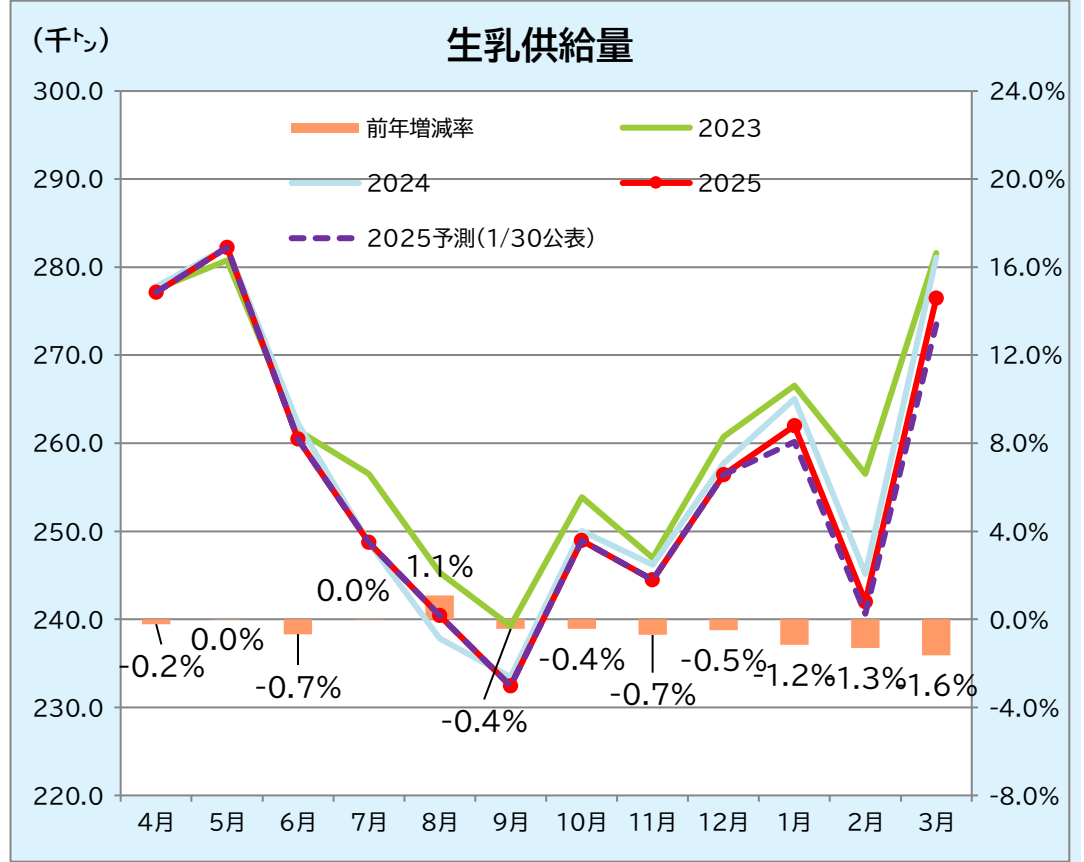
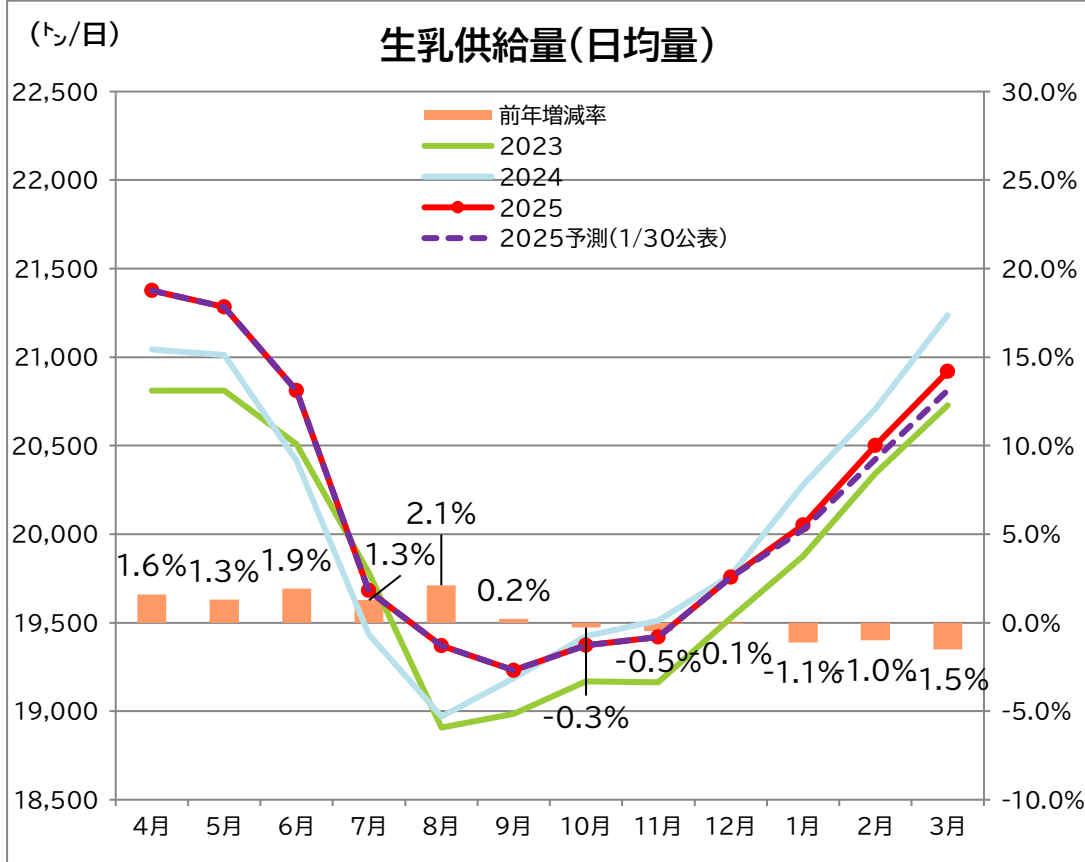


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)3月の生乳供給量は648.5千トン(前年同月比98.5%)、飲用等307.8千トン(同96.3%)、乳製品向(認定ベース)340.7千トン(同100.6%)。
 (2)飲用等向が8か月連続で前年を下回り、生乳供給量が6か月連続で前年を下回った結果、乳製品向は2か月連続で前年を上回った。
 (3)1月30日に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:645.2千トン)は上振れ、飲用等向(予測値:315.1千トン)は下振れ、乳製品向(予測値:330.1千トン)は上振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)3月は、生乳供給量276.5千トン(前年同月比98.4%)、牛乳等向257.7千トン(同97.0%)。
 (2)北海道からの移入量については32.2千トン(同95.3%)と6か月連続で前年を下回った。
 (3)1月30日に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:273.5千トン)は上振れ、牛乳等向(予測値:261.7千トン)は下振れ、移入量(予測値:37.2千トン)も下振れとなった。



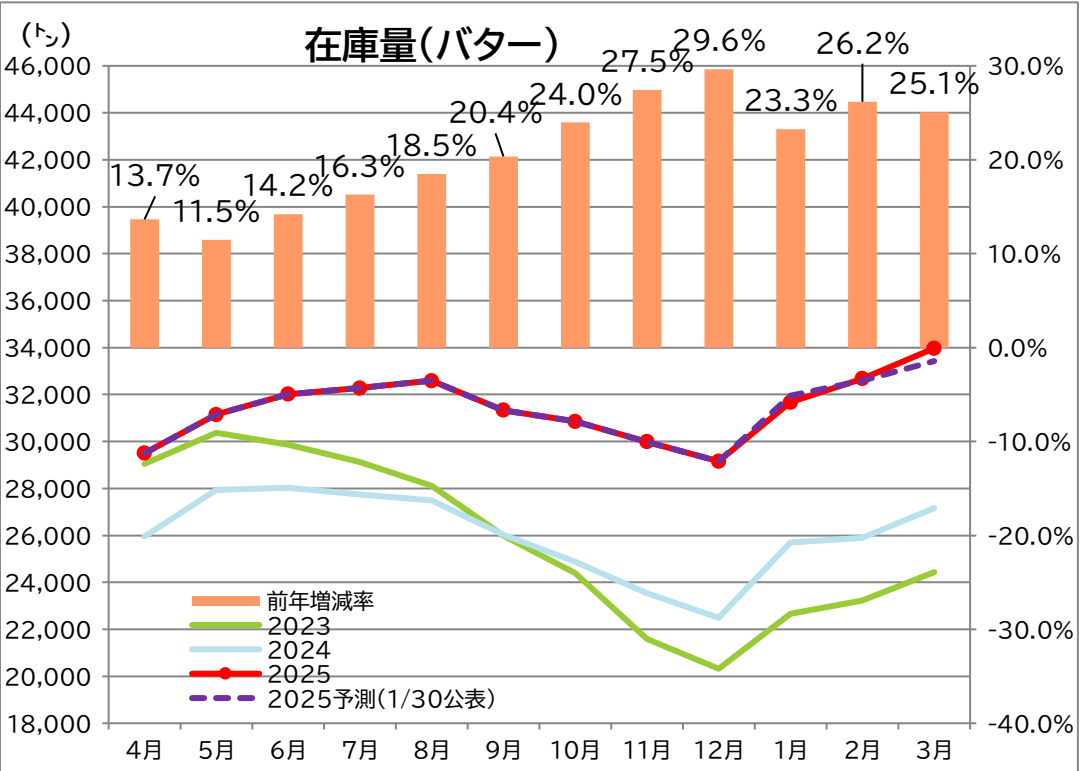
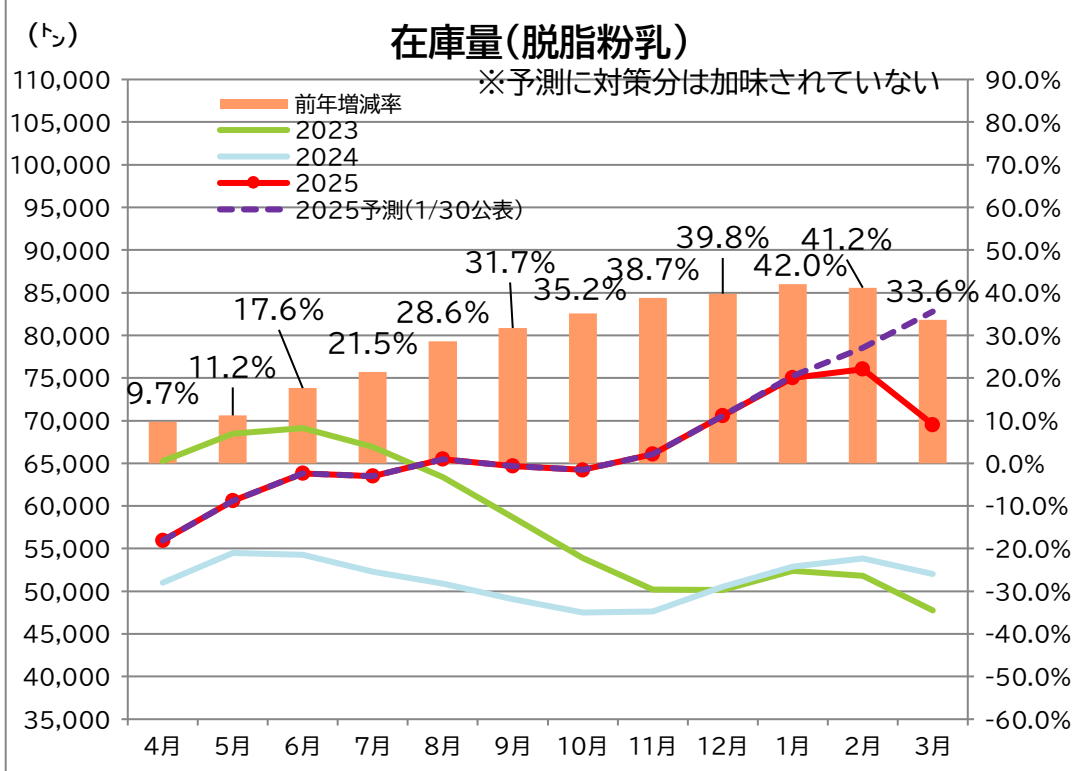
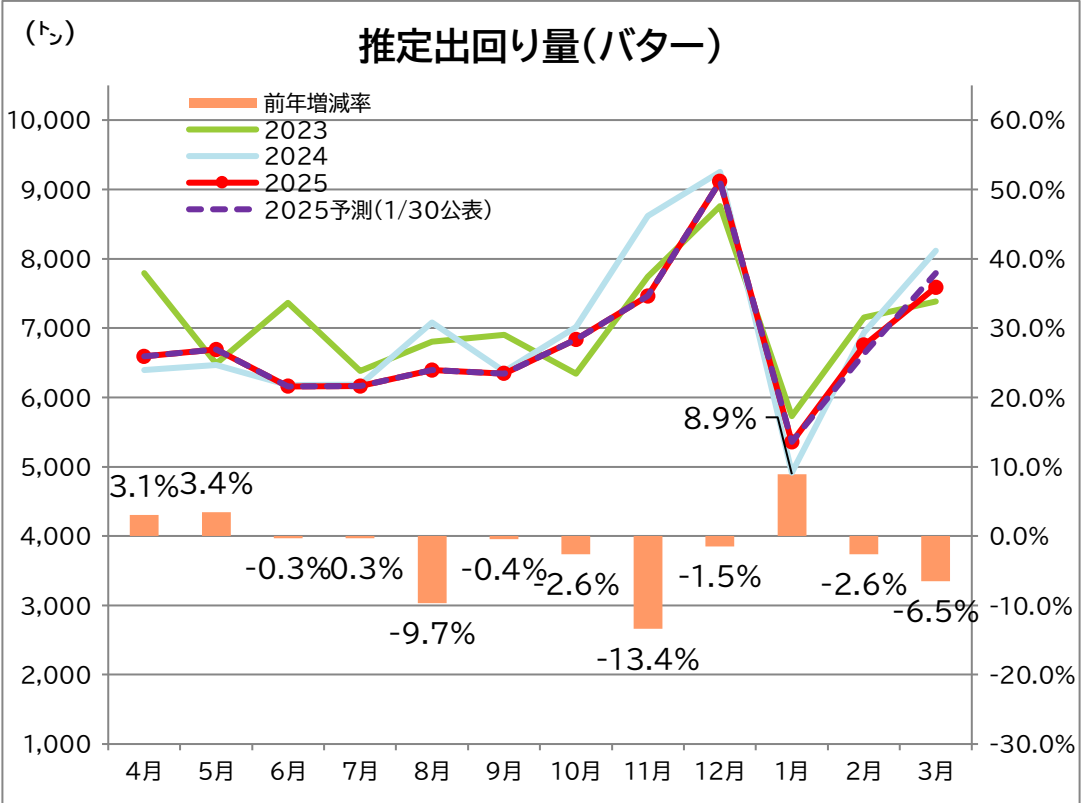
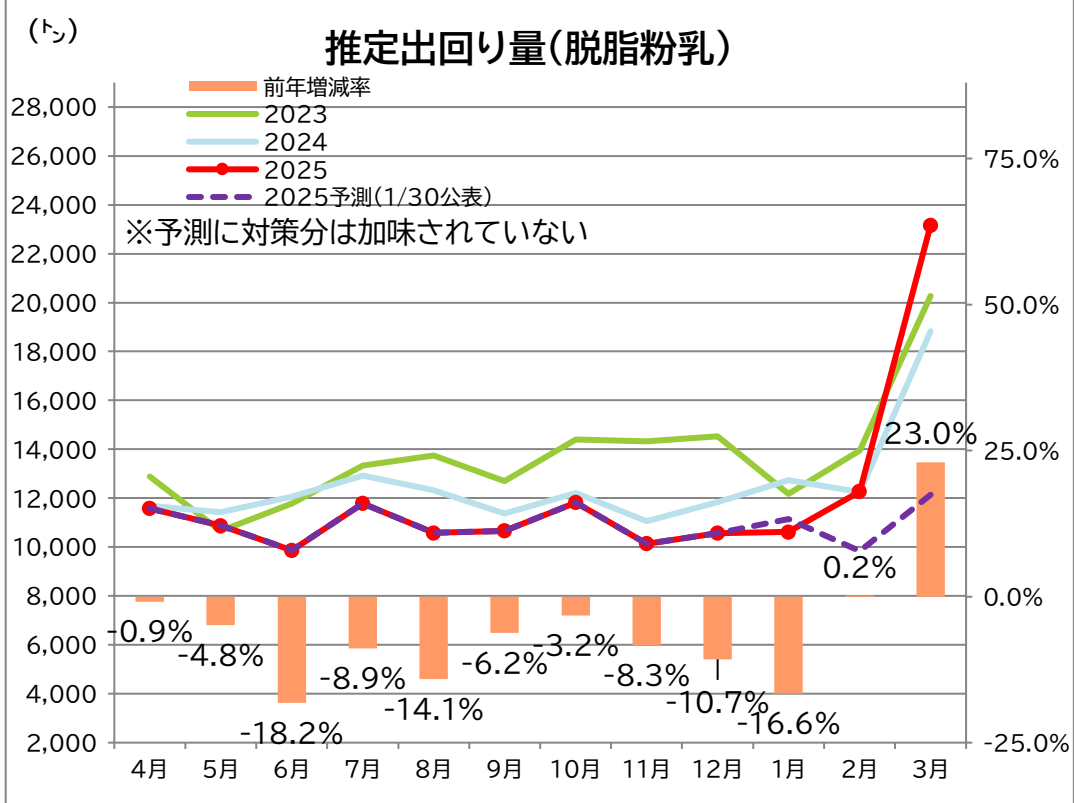
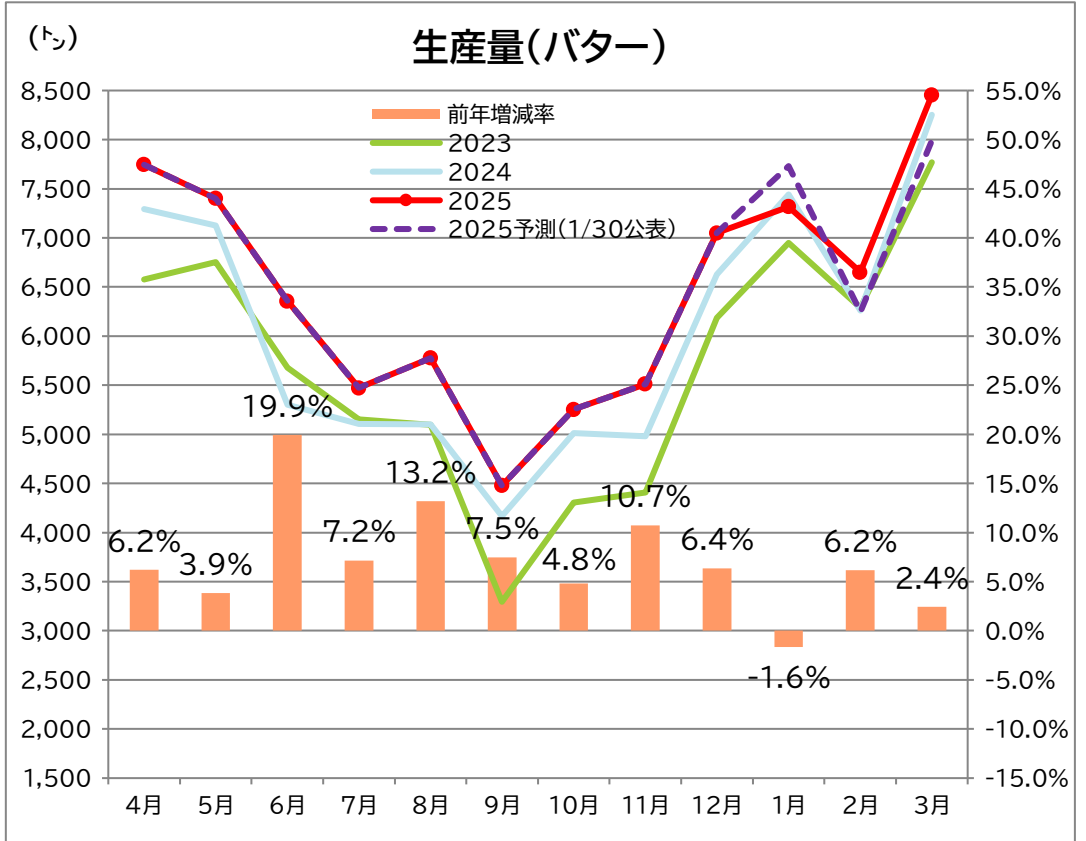
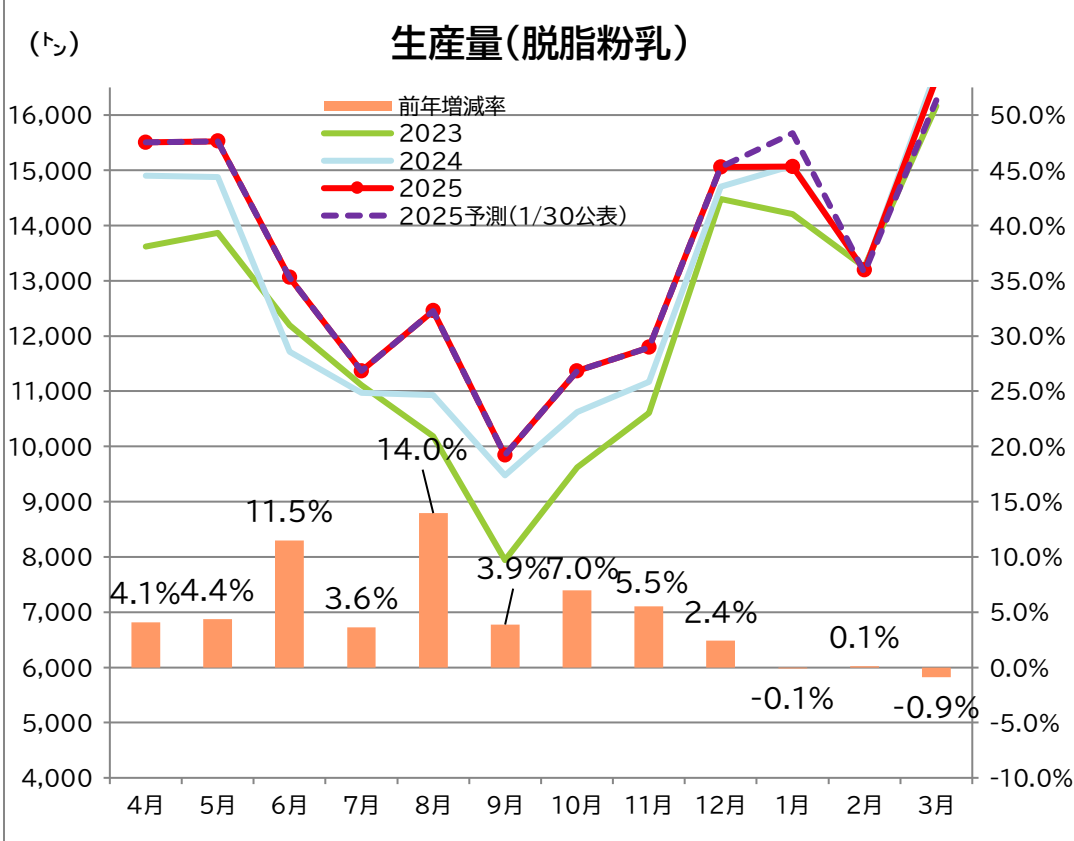
【脱脂粉乳・バターの需給】

(1)脱脂粉乳について3月の生産量は16.7千ト(前年同月99.1%)、推定出回り量は23.2千ト(同123.0%)となった。出回り量が生産量を上回り在庫量は前月から6.5千ト程度減少し、69.5千ト(同133.6%)となった。在庫量は2024年12月、約2年3カ月ぶりに前年水準を上回りそれ以降、15カ月連続で前年超えで推移している。2025年12月には在庫量が34カ月ぶりに7万トを上回ったが、2026年3月には4か月ぶりに7万トを下回った。

※なお、推定出回り量の実績について、需給変動対策による在庫低減対策を差し引いた数量は98.3%(前年同月の数量も当時の在庫対策の数量を差し引いた実績と比較)。

(2)バターについて、3月の生産量は8.5千ト(同102.4%)、推定出回り量は7.6千ト(同93.5%)となった。国家貿易による輸入売渡分(約0.4千ト)も考慮すると在庫量は前月から約1.3千ト増加し34.0千ト(同125.1%)となった。在庫量は19カ月連続で前年超え。

➡脱脂粉乳とバターの需要のアンバランスが表面化するなか、飲用需要が低調に推移している。脱脂粉乳は、積み増しを避けるべく需要拡大や理解醸成活動による消費の底上げを図る必要がある。バターは、消費動向を注視し、国家貿易による対応も含めて需要に対応した安定供給に努める必要がある。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)4月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比100.6%、成分調整牛乳:同84.7%、加工乳:同90.1%、乳飲料:同96.3%。牛乳類全体:同98.8%

【参考】2024年4月比…牛乳:97.1%、成分調整牛乳:80.6%、加工乳:77.0%、乳飲料:89.0%(牛乳類トータル:94.5%)

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(5/4週)の販売個数は、牛乳:前年同期比101.8%、成分調整牛乳:同85.0%、加工乳:同89.4%、乳飲料:同96.1%。牛乳類トータルでは同99.8%

出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

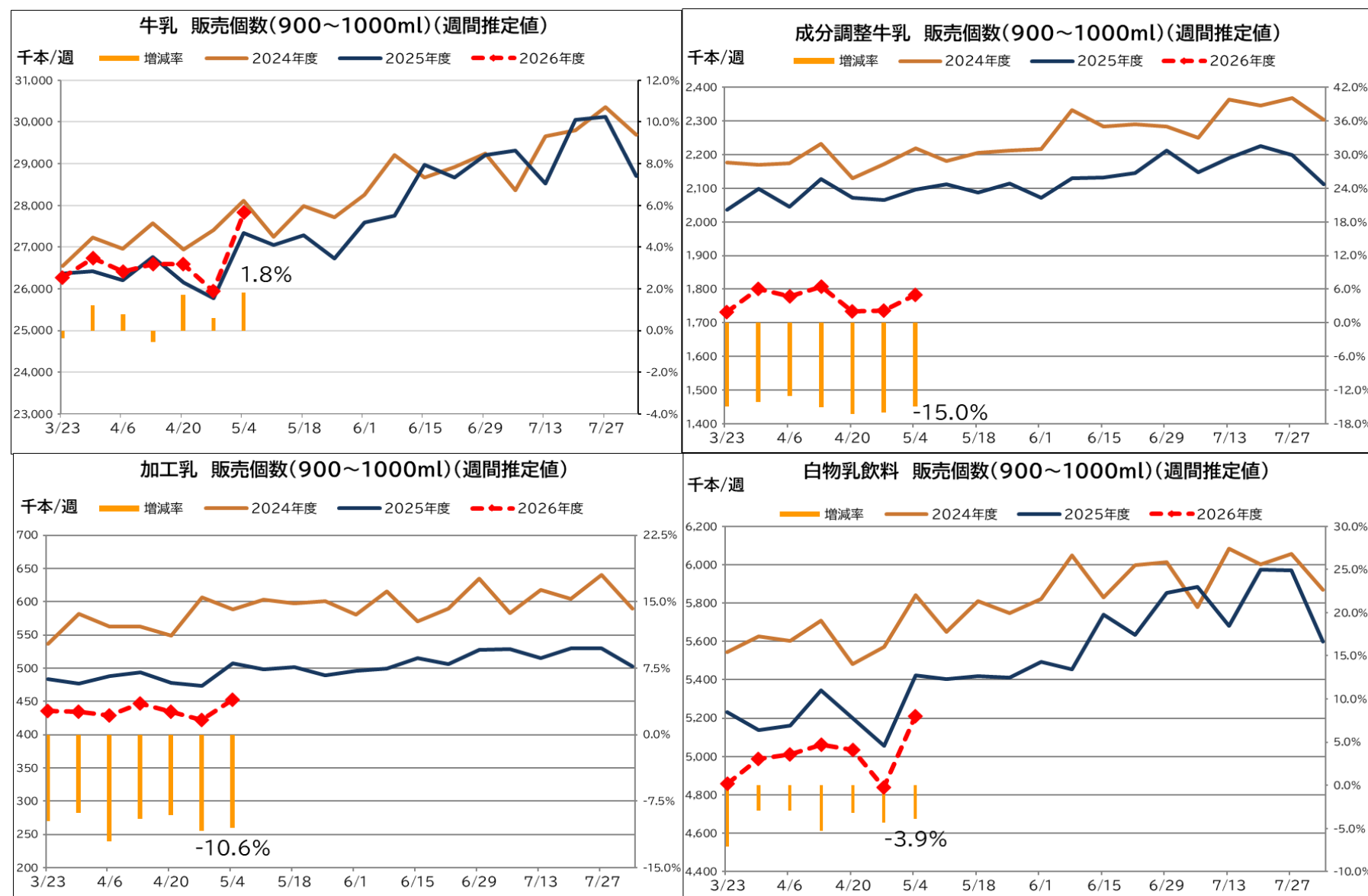
単位:千個、円

品目	区分	2025/11-	2025/12-	2026/1-	2026/2-	2026/3-	2026/4-	2026/4- 2022/10価格差	2026/4- 2023/3価格差	2026/4- 2023/7価格差	2026/4- 2025/7価格差
		販売個数	144,208	145,307	140,048	131,371	146,106	144,517			
トータル	販売個数前年比	98.0	97.0	98.3	97.8	97.6	98.8	42.2	27.1	25.3	9.0
	販売単価	225.6	226.3	226.2	225.8	225.2	225.3				
牛乳	販売個数	111,759	113,669	109,701	103,162	115,117	113,587				
	販売個数前年比	99.1	98.3	100.0	99.7	99.6	100.6	43.6	27.3	26.5	8.7
成分調整牛乳	販売個数	8,527	8,590	8,035	7,252	7,718	7,576				
	販売個数前年比	92.2	91.9	90.5	86.5	85.0	84.7	44.3	28.7	25.1	11.4
加工乳	販売個数	2,059	2,034	1,947	1,750	1,925	1,867				
	販売個数前年比	95.2	90.0	95.0	92.5	90.4	90.1	44.6	34.9	24.7	13.2
乳飲料	販売個数	21,863	21,014	20,366	19,207	21,345	21,486				
	販売個数前年比	95.4	93.0	93.3	93.6	93.0	96.3	32.5	21.9	18.2	8.4
	販売単価	179.9	182.7	181.8	181.7	181.2	182.0				

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	3.16-	3.23-	3.30-	4.6-	4.13-	4.20-	4.27-	5.4-	26.5.4- 22.10.24 価格差	26.5.4- 23.3.20 価格差	26.5.4- 23.7.24 価格差	26.5.4- 25.7.21 価格差
		販売個数	32,843	33,294	33,957	33,633	33,913	33,801	32,934	35,284			
トータル	販売個数前年比	98.2	97.6	99.5	99.2	97.6	99.7	98.7	99.8	41.7	26.8	24.4	8.4
	販売単価	225.3	225.2	225.1	225.4	225.4	225.0	225.8	224.9				
牛乳	販売個数	25,881	26,267	26,734	26,415	26,595	26,595	25,939	27,838				
	販売個数前年比	100.2	99.6	101.2	100.8	99.4	101.7	100.6	101.8	43.1	26.8	25.6	8.1
成分調整牛乳	販売個数	1,730	1,732	1,802	1,778	1,808	1,735	1,736	1,783				
	販売個数前年比	85.8	85.1	85.9	86.9	85.0	83.8	84.0	85.0	44.8	30.0	25.1	11.9
加工乳	販売個数	433	436	435	429	447	434	422	453				
	販売個数前年比	89.3	90.4	91.1	88.0	90.5	90.9	89.1	89.4	41.2	31.8	21.9	9.6
乳飲料	販売個数	4,799	4,859	4,986	5,011	5,062	5,036	4,838	5,210				
	販売個数前年比	93.6	92.9	97.0	97.1	94.7	96.8	95.7	96.1	30.2	20.3	15.4	5.7
	販売単価	181.1	180.9	181.4	182.0	182.2	182.2	181.8	180.7				

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表⑤参照)

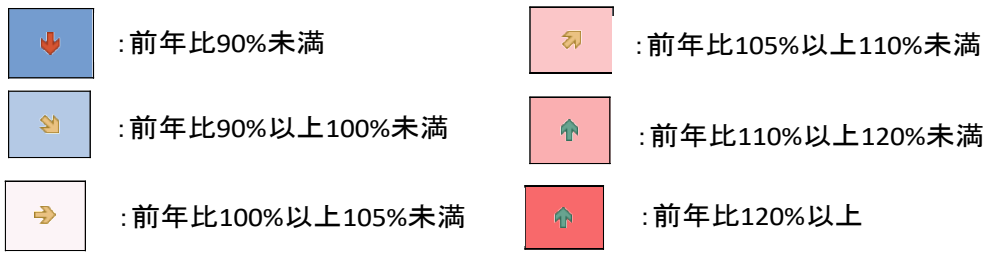
直近(5/4週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同100%以上。はっ酵乳全体としては、前年を下回った。(3品目合計販売個数は前年同期比90%以上、合計販売容量は同100%以上)。

(2)販売個数について、前週(4/27週)との比較では、3品目いずれも増加した。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表⑤ ヨーグルト類の販売動向】

品目	3.16-	3.23-	3.30-	4.6-	4.13-	4.20-	4.27-	5.4-
ドリンクタイプ	→	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘
個食タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	↘
大容量タイプ	→	→	→	↗	→	↗	→	→



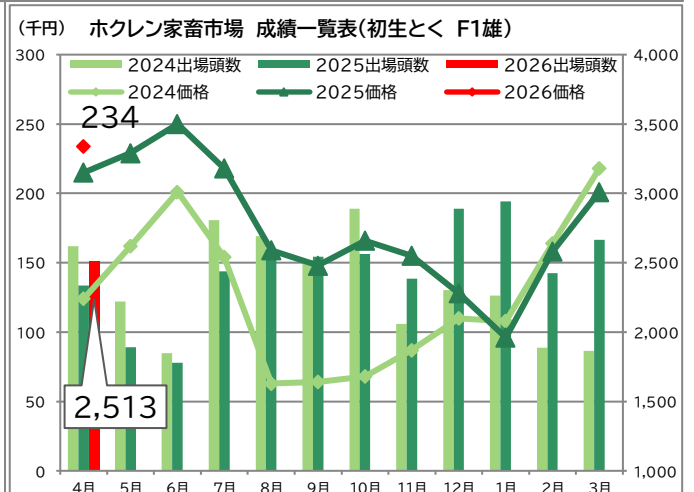
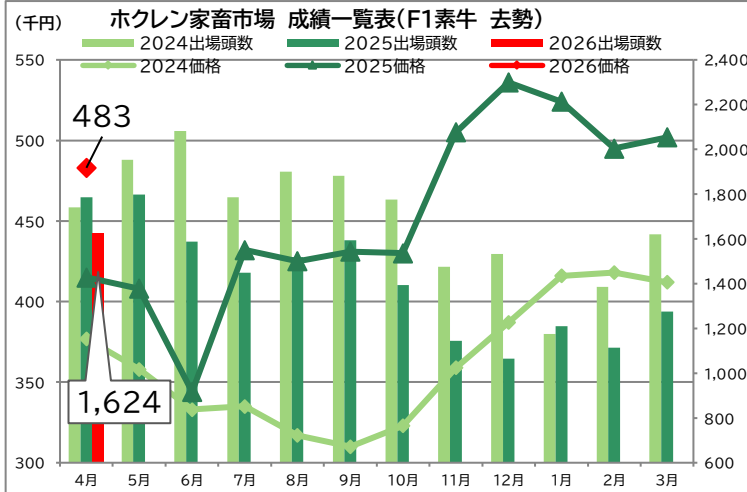
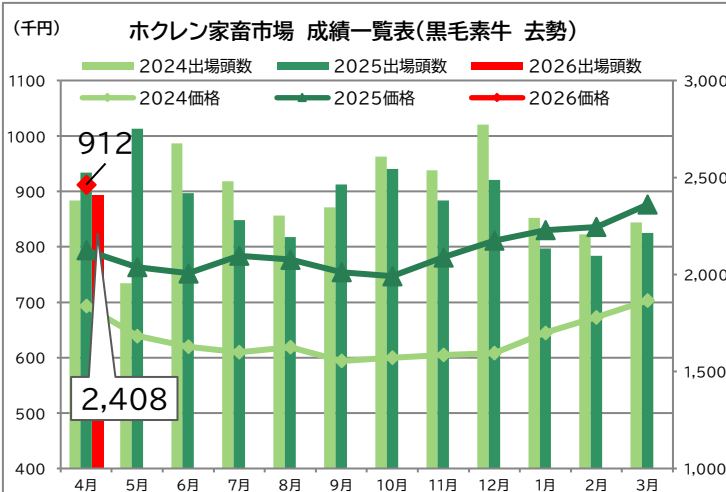
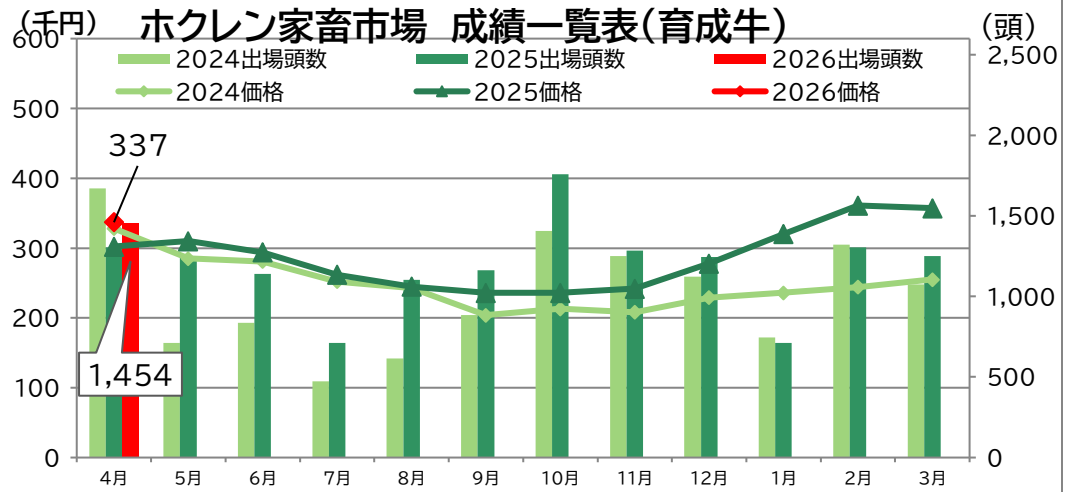
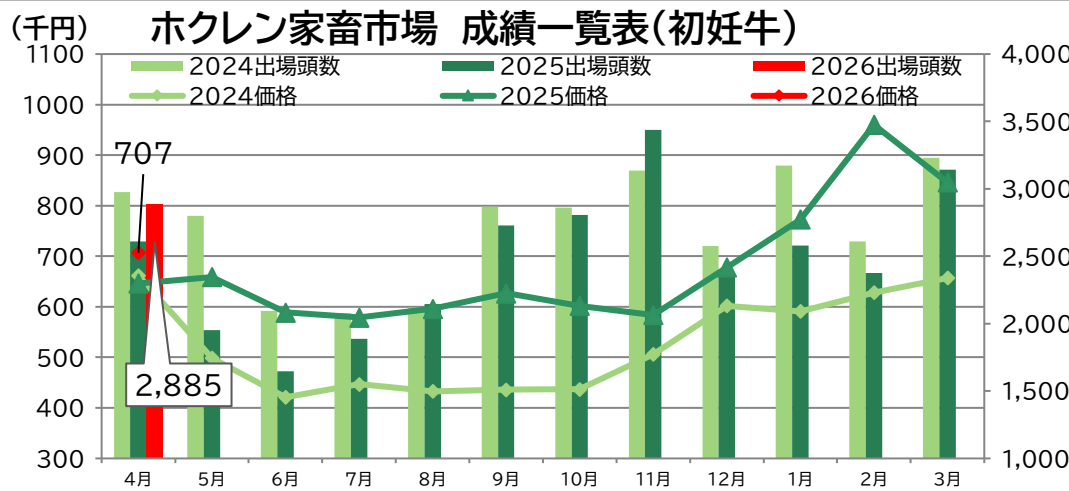
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向(税込)】

(1)4月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は707千円(前年同期比109.4%)、育成牛価格は337千円(同111.6%)、和牛素牛(去勢)価格912千円(同114.9%)、F1素牛(去勢)価格は483千円(同116.4%)。初妊牛は3カ月振りに80万円を下回り、育成牛は4カ月連続で30万円台を維持した。ホル初生(雄)価格は124千円(同160.2%)と、2か月連続で100千円を上回った(グラフ無し)。

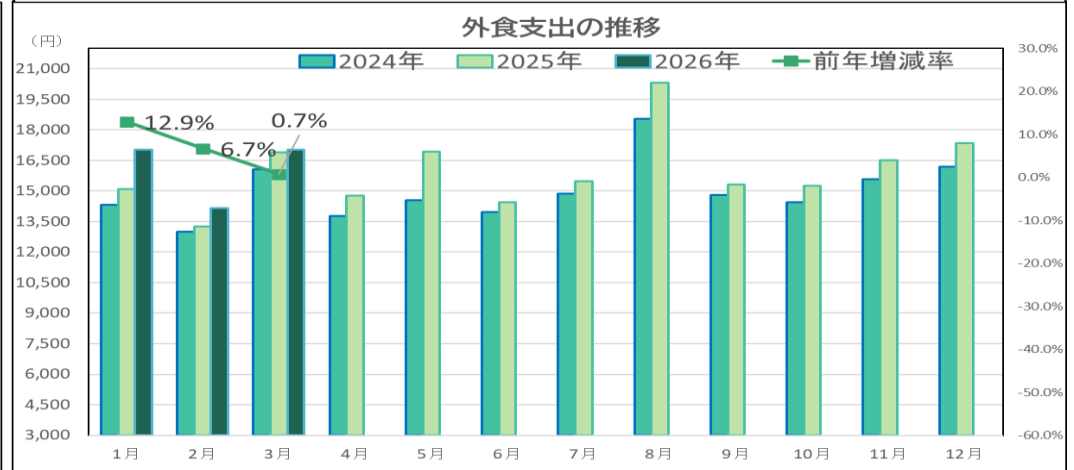
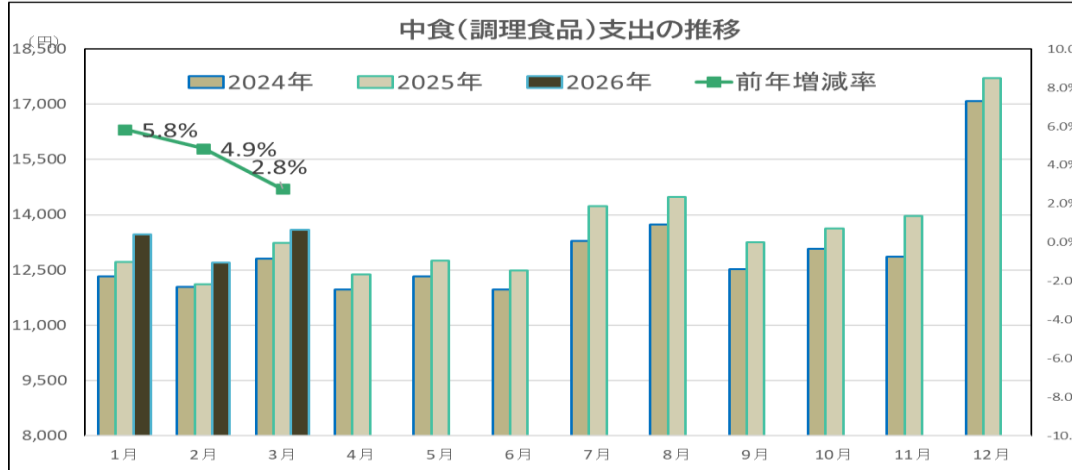
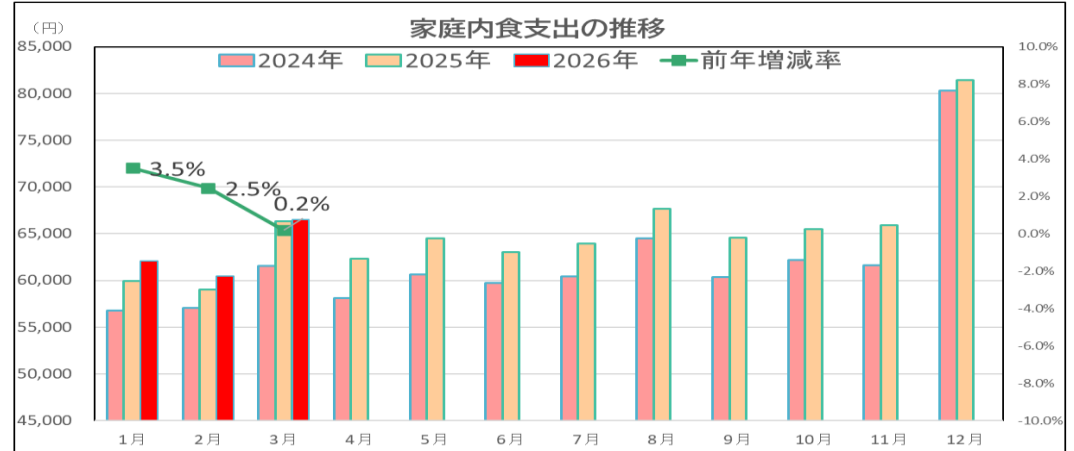
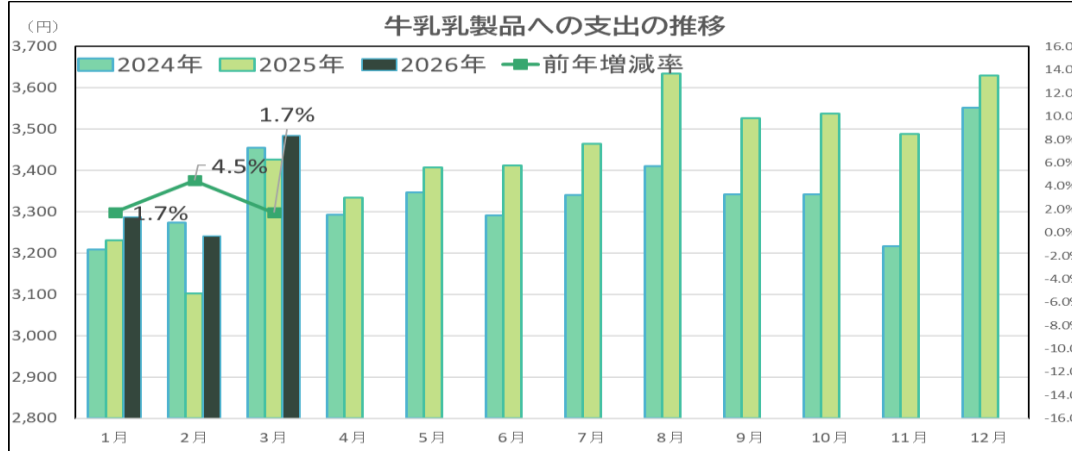
(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同110.5%、育成牛:同111.6%、F1初生(雄):同107.6%、和牛素牛(去勢):同95.3%、F1素牛(去勢):同91.0%。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

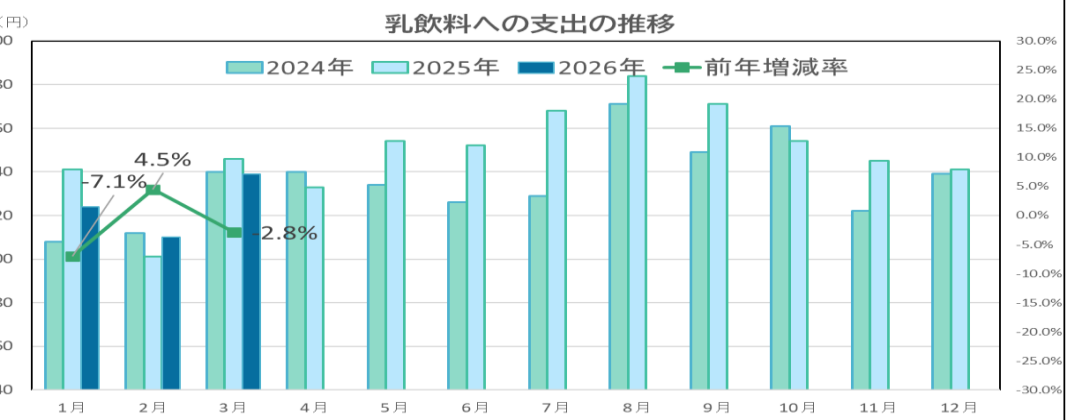
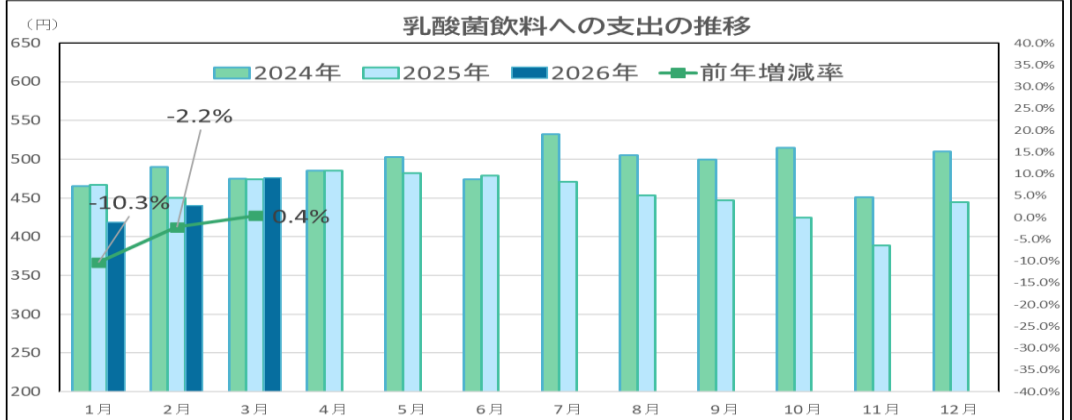
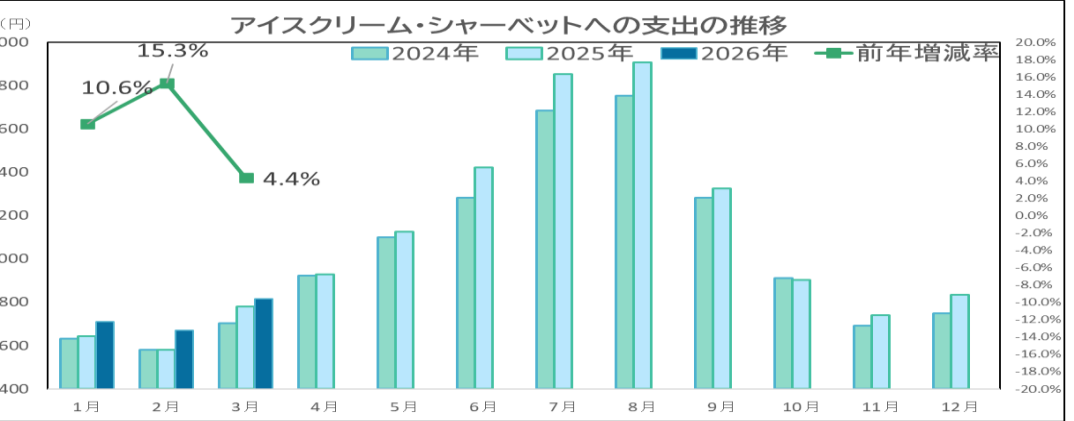
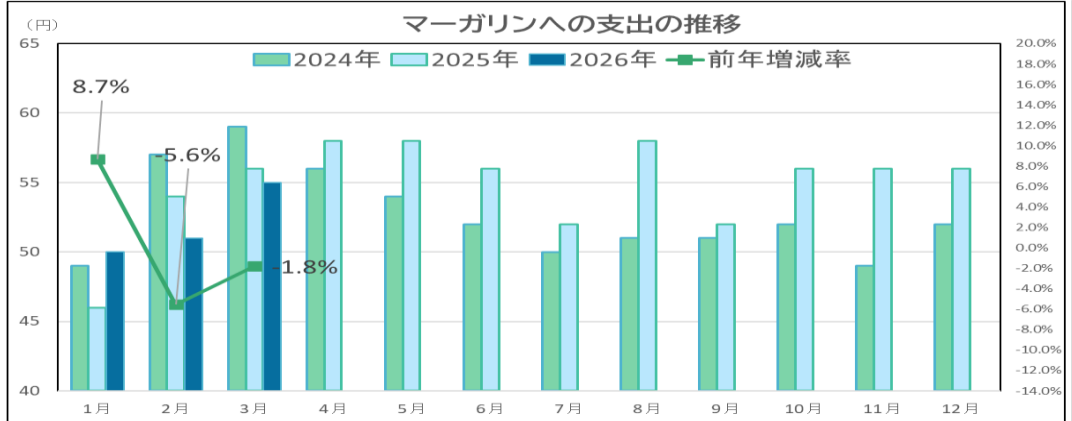
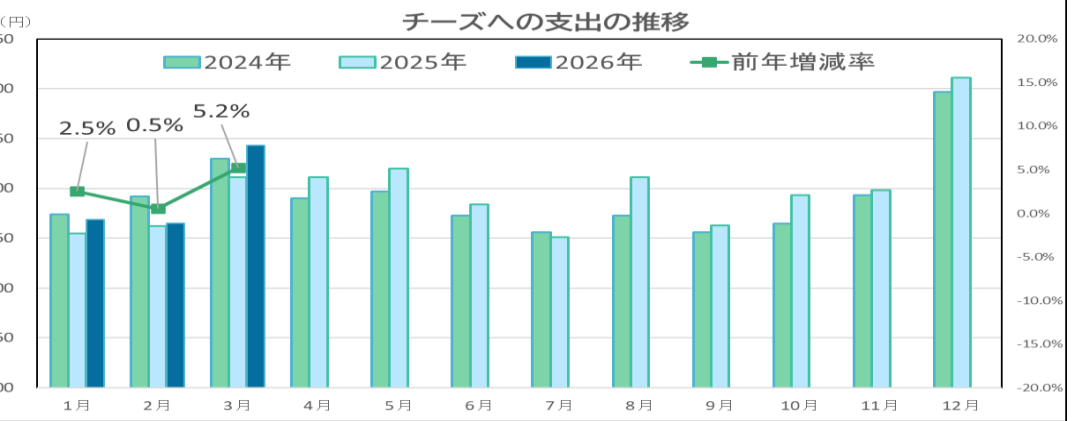
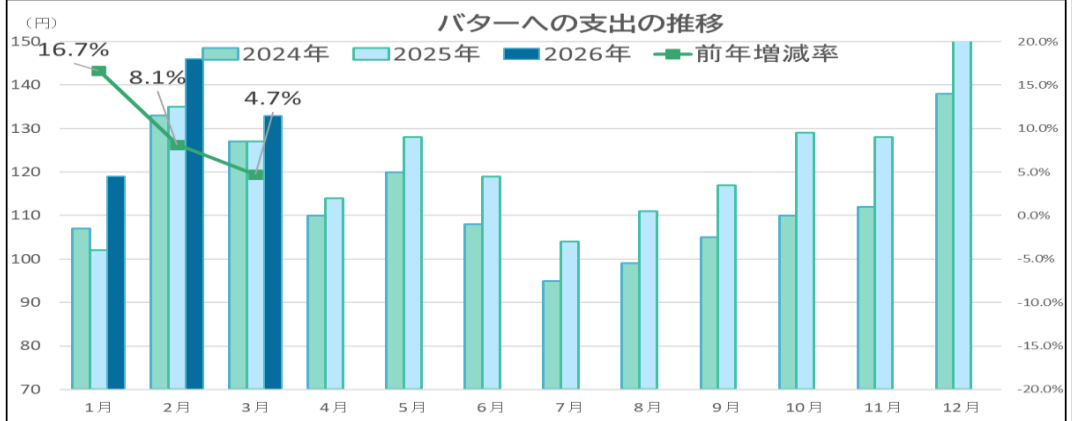
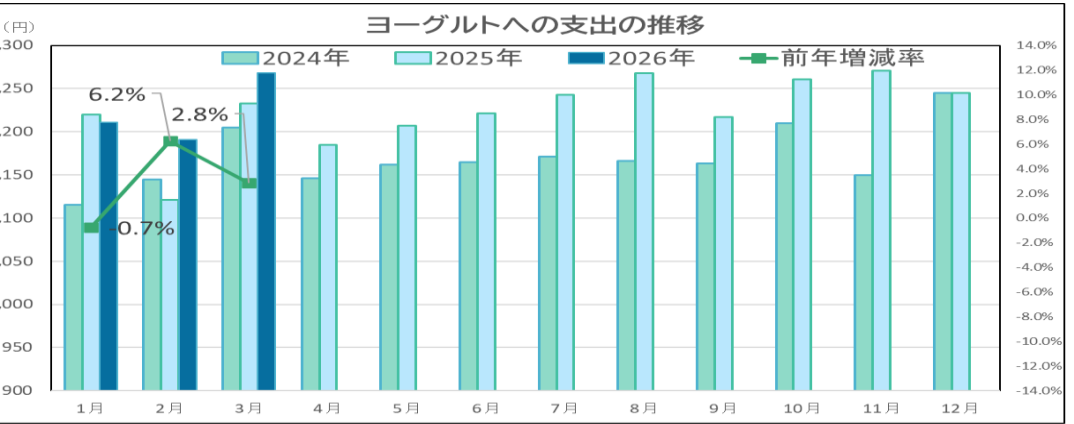
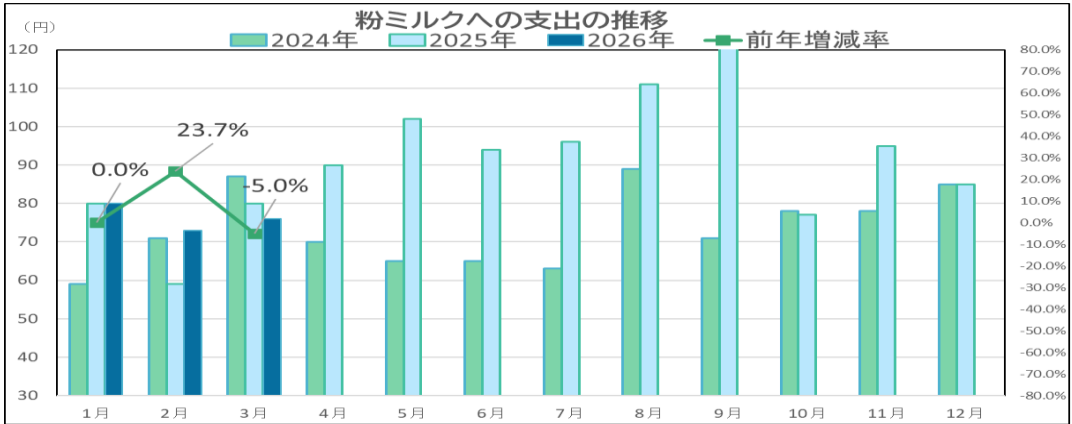


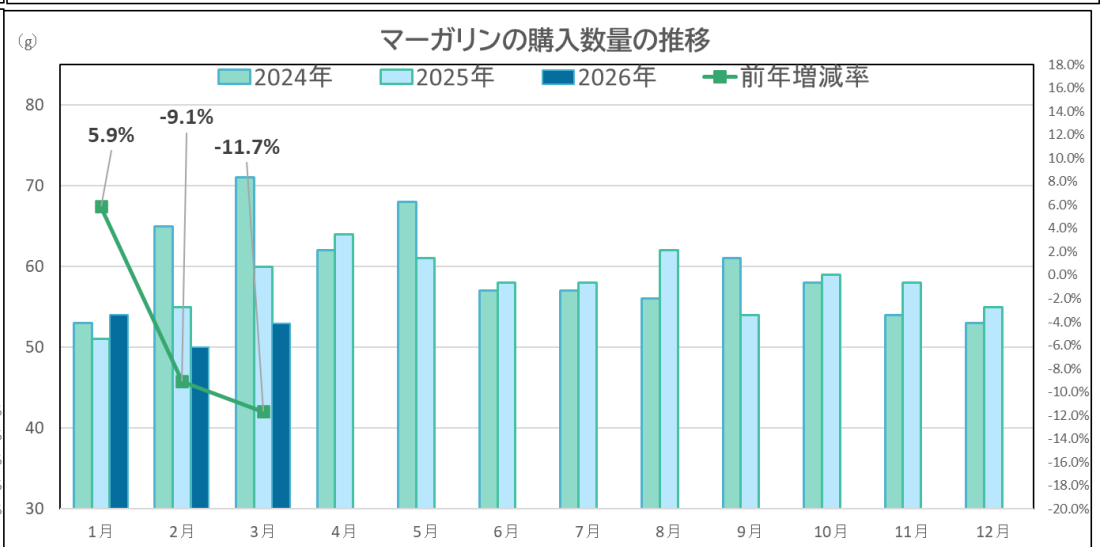
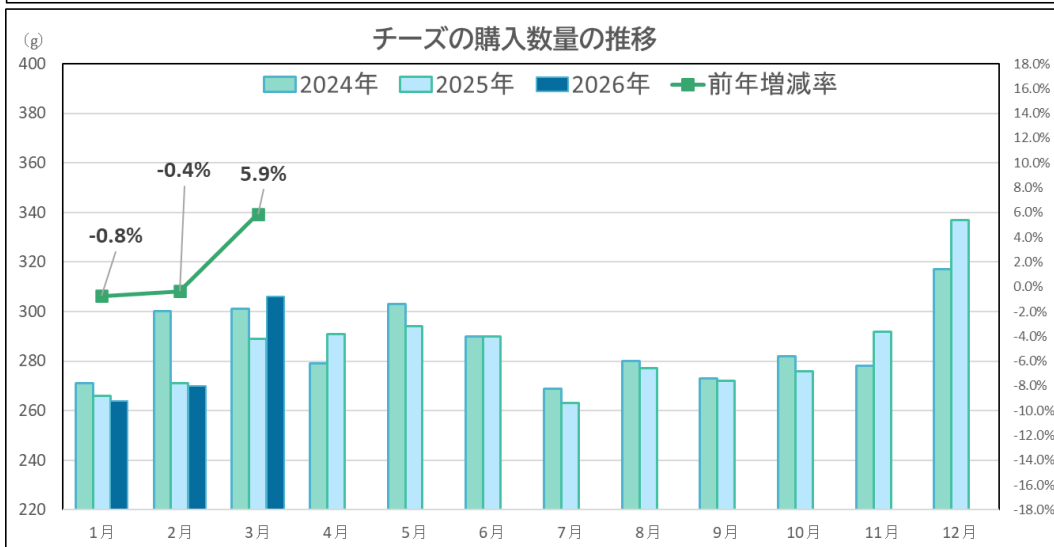
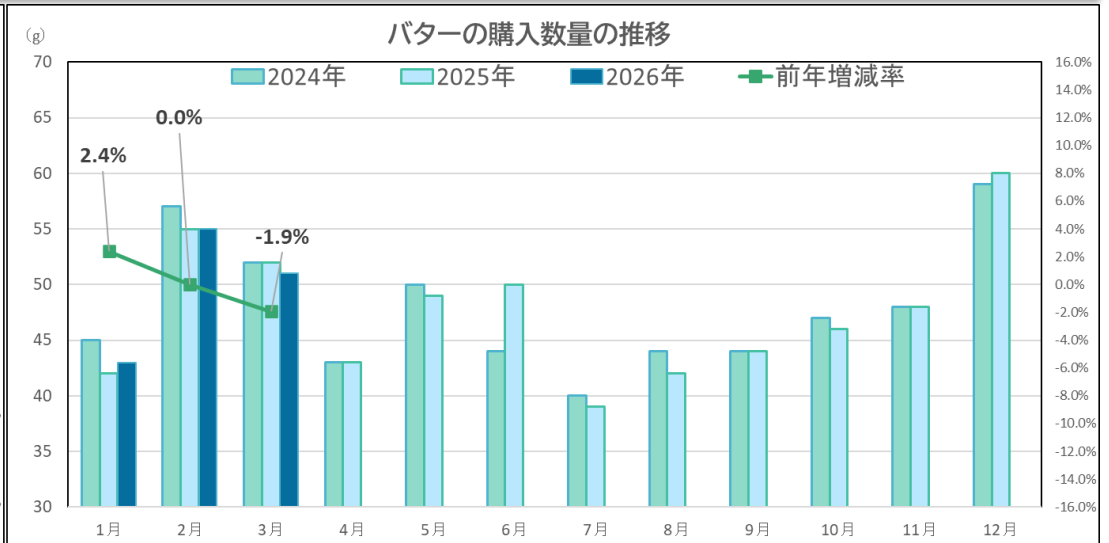
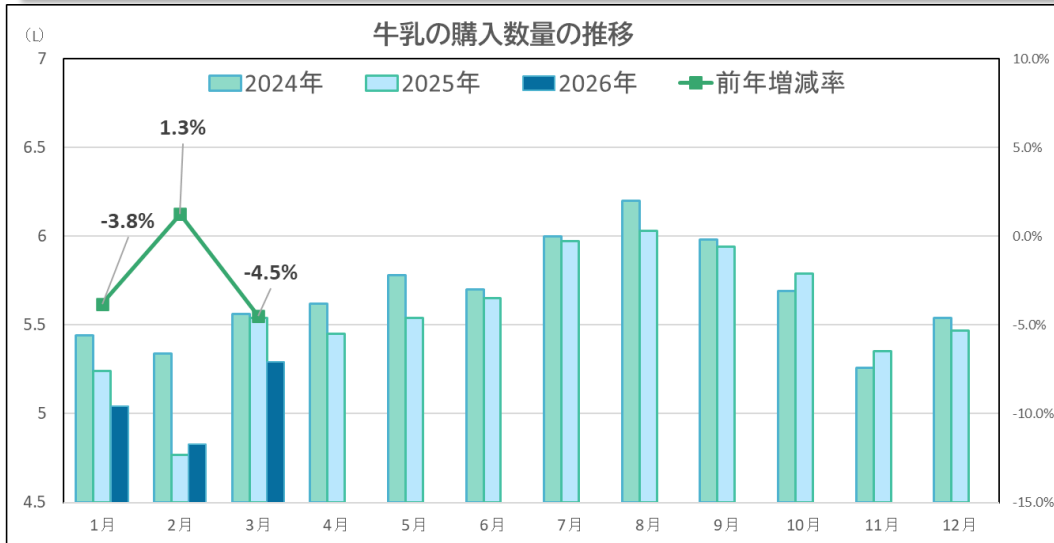
【家計支出の動向】

- (1)3月の支出額前年比について、外食100.7%、中食102.8%、内食100.2%といずれも前年を上回り、食料全体への支出額は100.6%となった。
 - (2)牛乳乳製品の支出額も前年比101.7%(うち牛乳99.1%、乳製品103.3%)と10カ月連続で前年を上回ったものの、牛乳は8か月ぶりに前年割れとなった。
 - (3)なお、購入量は、牛乳95.5%(1世帯当たり5.3%)と2か月ぶりに前年割れ。バターは5か月ぶりに前年割れ、チーズは3か月ぶりに前年超えとなった。
- ※総務省家計調査(二人以上の世帯。家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)

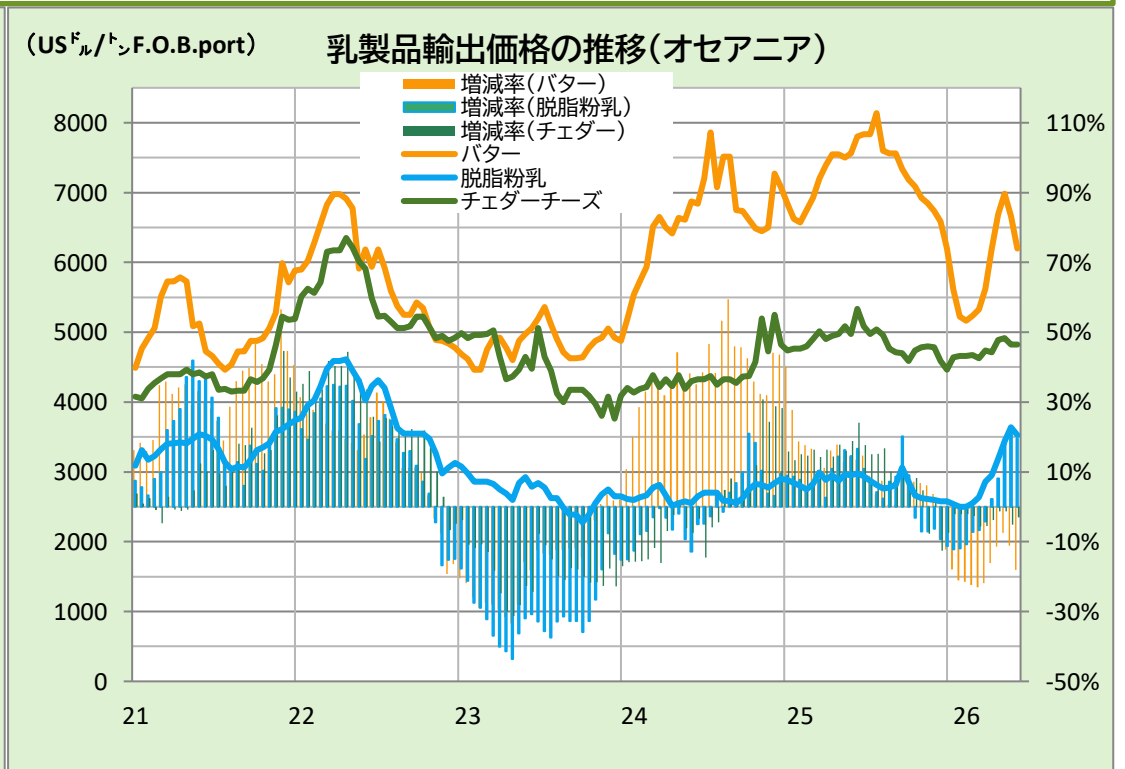
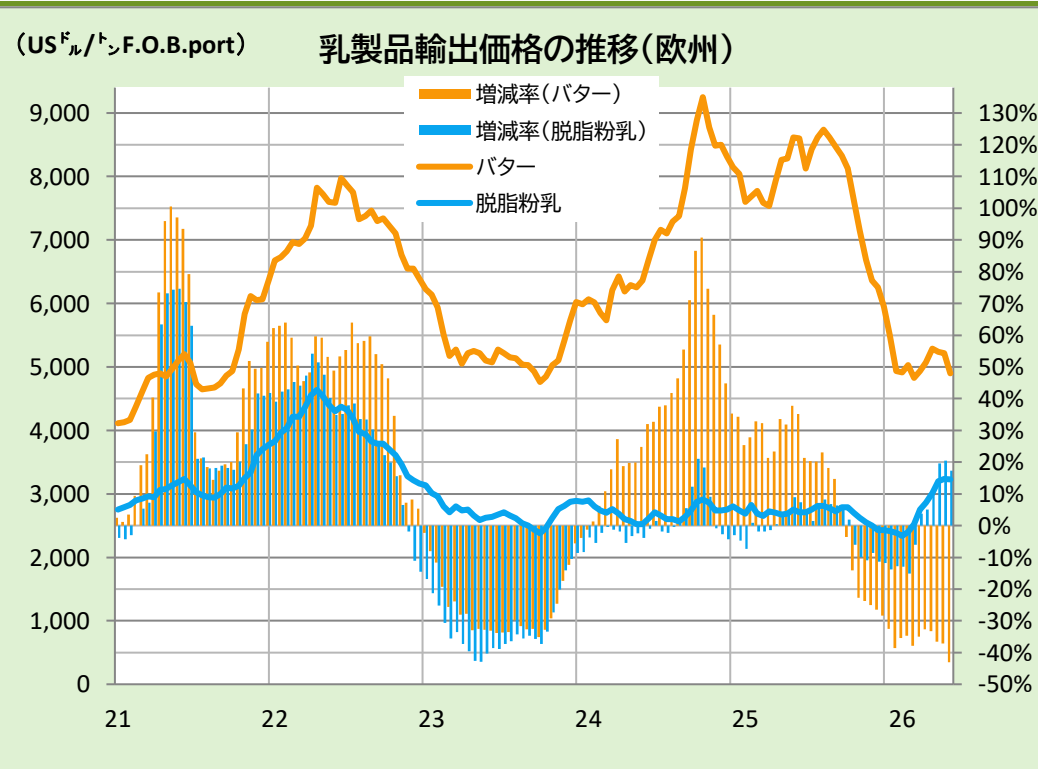


【参考:その他品目支出の動向】





【乳製品輸出価格の動向】
 (1)直近の乳製品国際相場について(4月下旬)
 ・欧州:脱脂粉乳3,225ドル/ト、バター4,900ドル/ト中心。
 ・オセアニア:脱脂粉乳3,525ドル/ト、バター6,200ドル/ト、チェダーチーズは4,825ドル/ト中心
 ※出典:米国農務省(USDA)



※「2026年度国産牛乳乳製品の需要拡大等事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」